

我孫子市

幼保小連携・接続カリキュラム

【方針編】



我孫子市
令和2年3月改訂

我孫子市幼保小連携・接続カリキュラム【方針編】

目次



第1章	幼児教育・保育と小学校教育をなめらかにつなぐために	
1	幼保小連携について	1
2	カリキュラムの視点	10
第2章	幼保小連携・接続カリキュラム【方針】	
	2章の構成	17
1	生活する力	
	(1) 基本的な生活習慣	18
	(2) 健康な体づくり	22
2	コミュニケーション力	
	(1) 伝え合う力	26
	(2) 人間関係力	30
3	チャレンジ力	
	(1) 学びの基礎	36
	(2) 気力・忍耐力	40
4	豊かな心	
	(1) 思いやり	44
	(2) 命や自然を大切にする	48
第3章	効果的な交流活動のヒント	
1	子ども同士の交流活動	53
2	子どもと大人を交えた交流活動	57
3	大人同士（教職員）の交流活動	61
第4章	資料	
	絵本特集	63
	「36の基本の動き」を意識して体力向上を	65
	入学までにできるようになってほしいこと	68
	1年生スタート時の指導内容チェック表	71
	1年生スタートカリキュラム参考資料	72
	1年生の教室より	73



第1章

幼児教育・保育と小学校教育を なめらかにつなぐために



1 幼保小連携について

(1) 幼保小連携の必要性

近年、家庭の形態や地域の親密性、社会の構造、自然環境等、子どもを取り巻く環境は著しい変化を遂げています。そしてそれらの変化は子ども達の発育に大きく影響を及ぼしていると言われていています。

そのような中、小学校に入学したばかりの1年生が、落ち着いて教師の話の聞いたり集団行動をとったりすることができず、授業が成立しなくなる「小1プロブレム」という現象が見られ始め、その言葉が定着して久しくなりました。その背景には、前述した家庭や社会の変化とともに、幼稚園や保育園から小学校への生活環境の急激な変化に子ども達がスムーズに適応できず、戸惑いをおこしたことも要因の一つにあると考えられます。

遊び中心の生活から学習中心の生活に変わる事、個人のペースが尊重されていた生活から集団生活に変わる事、管理する持ち物が増える事、一日に接する人数が増える事…。就学を境にした変化は、大人が考える以上に大きなものです。

このような現状を踏まえ、平成20年に告示された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び「小学校学習指導要領」には幼稚園・保育園と小学校との連携の必要性が明記され、その推進が位置づけられました。さらに平成29年3月に改訂された「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「小学校学習指導要領」では、それぞれの教育の接続についてのあり方が位置づけられ、幼児期の教育等で育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、発達や学びの接続についても同一の内容で明記されました。

〔幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領〕

◇幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。(第1章 第3の5 小学校教育との接続に当たっての留意事項(1))

◇幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。(第1章 第3の5 小学校教育との接続に当たっての留意事項(2))

◇地域や幼稚園の実態等により、幼稚園間に加え、保育所、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るものとする。特に幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。(以下略)(第1章 第6の3 学校間の交流や障害のある幼児との活動を共にする機会)

※〔保育所保育指針〕では下線部が「保育所保育」(第2章4の(2) 小学校との連携)、〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領〕では下線部が「幼保連携型認定こども園の教育及び保育」(第1章第2の1(5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項)と示されています。

〔幼稚園教育要領等 解説より〕

- ◇（前略）発達や学びは連続しており、幼稚園（保育園・認定こども園）から小学校への移行を円滑にする必要がある。しかし、それは、小学校教育の先取りをすることではなく、就学前までの幼児期にふさわしい教育（保育）を行うことが最も肝心なことである。（以下略）（解説 第1章 第3の5 小学校教育との接続に当たっての留意事項（1）等）
- ◇幼稚園教育（保育所保育等）と小学校教育の円滑な接続を図るため、小学校教師との意見交換や、合同の研究会や研修会、保育参観や授業参観などを通じて連携を図るようにすることが大切である。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して意見交換を行ったり、事例を持ち寄って話し合ったりすることが考えられる。（解説 第1章 第3の5 小学校教育との接続に当たっての留意事項（2）等）

〔小学校学習指導要領〕

- ◇幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。（第1章 第2の4 学校段階等間の接続（1））

このように、幼児期の教育及び保育と小学校教育（以下「幼保小」）の接続、特に発達や学びの接続について、更なる充実が求められています。

我孫子市でも以上のことを踏まえ、幼児期の教育及び保育と小学校教育の間にある段差をできるだけ低いものにして滑らかな移行を進めたいと願い、平成22年度に発足した「我孫子市幼保小連携に関する準備会」を経て、平成24年度に「我孫子市幼保小連携協議会」を設置し、教育委員会指導課と子ども部保育課が協力しながら、幼保と小の連携を推進しています。

幼保小の連携は、前述のように当初はいわゆる小1プロブレムへの対応として呼びかけられましたが、現在では、幼児期の学びや経験、生活のリズムや習慣を緩やかに学校教育のそれへと移行させることで、子どもに校種移行に伴う後退や断絶を生まないための積極的な方策として理解されています。また、各園や学校の個性や教育・保育方針を大切にするとともに、全ての園児はやがて小学校に入学することを念頭に置き、同じ方向を見て進むことも必要です。園・学校ともまずはお互いの教育や保育内容を理解し、そのつながりを意識することでさらに自園・自校での教育や保育が充実

したものになるよう、連携を進めていきたいと思えます。幼稚園・保育園・認定こども園と小学校双方の子ども達や教職員にとって得るところの多い「互恵性」のある連携を目指していきます。

(2) 幼保小連携の効果

今までの実践報告より、連携には以下のような効果が挙げられています。

○子ども同士の交流活動

- ・小学生と交流することで、園児の不安が期待や楽しみ、憧れにかわり、小学校生活に見通しや安心感がもてるようになる。また、「小学生になるんだ」という自覚が出てくる。
- ・自然な形で学校生活や学習につながる経験や遊びを体験できる。
- ・園同士で交流すると、同世代の友達と関わることで刺激を受け、仲間意識や意欲につながる。
- ・今までなかった遊びが入り、園での活動が豊かになる。
- ・園児も児童も年下に対する思いやりの気持ちが生まれる。
- ・小学校では、教科の学習と関連させて交流活動を行うことで、目的意識や相手意識をもつことができ、有意義な学習につながる。
- ・児童は、園児との触れ合いを通して自分たちの成長を感じ、上級生としての自覚が生まれる。
- ・児童は、園児や出身園の先生が授業を参観してくれることが意欲や励みにつながる。
- ・1年生は、翌年の1年生を迎える心構えができる。

○子どもと大人を交えた交流活動

- ・小学校の教員による模擬授業等を実施することで、園児の入学に向けての意識が高まる。
- ・園の担任が小学生の様子を知ること、就学を見据えた指導につながる。

○教職員の交流活動

- ・互いの様子を知る機会が増え、情報交換や情報共有ができる。
- ・交流を重ねることで園と学校の関係も深まり、保育士も小学校に親しみをもつようになる。
- ・子どもの引き継ぎをしっかりと行うことができる。特に支援を必要とする子どもの対応の仕方について具体的に伝え、学級編成や児童理解の参考にすることができる。
- ・合同の研修を行い、接続期の教育や保育について話し合うことで、就学へ向けての子どもの育ちやお互いの教育や保育等について理解を深めることができ、その後の保育や教育内容に生かすことができる。就学を境とする接続への意識も高まる。

(3) 幼保小連携の内容と進め方

○交流とカリキュラムで連携を進めます。

ステップ1 2 3 4 5を活用して段階を踏んだ連携を深め、なめらかな接続を目指します。

交流 ☆5つの地区を基本に、近隣の学校・園同士の交流を深める
 ☆対象は、全ての園児と児童（小1・年長に限らない）

- ① 子ども同士の交流
- ② 子どもと大人を交えた交流
- ③ 大人同士の交流

カリキュラム（我孫子市幼保小連携・接続カリキュラム）

☆対象は、年長の10月から小1の6月の9ヶ月間

○推進委員会では、幼保小が連携して教育の円滑な移行を推進するための施策について協議、及び検討します。

○地区別会議では、交流活動について具体的に計画を立てたり、子どもや教育・保育についての情報交換をしたりします。

○教職員の研修会を開催し、幼保と小がお互いの教育や保育について、また幼保小連携についての理解を深め、資質向上を図ります。

【ステップ】

ステップ1	はじめの 一歩	◇ 幼保小連携の啓発 ◇ 小学校への散歩（校庭・遊具の利用 トイレの借用） ◇ 学校だより・園だより等を通しての情報交換 ◇ 幼稚園・保育園・認定こども園・小学校行事への活動（催し物）案内
ステップ2	参加交流	◇ 幼保小連携に関する研修会 ◇ 小学校見学 ◇ 小学校の授業（生活科、国語科等）での子ども同士の交流 ◇ 幼稚園・保育園・認定こども園・小学校行事への参加
ステップ3	協働交流	◇ 入学に際しての引き継ぎ ◇ 職員の交流 ◇ 小学生のキャリア教育 ◇ 幼稚園・保育園・認定こども園児の小学校体験 ◇ 幼稚園・保育園・認定こども園保護者懇談会への小学校教員の参加（講師）
ステップ4	連携・接 続カリキ ュラム作 成・実施	◇ 幼保小連携・接続カリキュラムの作成及び実施 幼児期に育てたい力（基本的な生活習慣・社会性 等）を明らかにし、幼保小（1年の1学期まで）で取り組むべき事柄を踏まえたカリキュラムを作成・実施する。
ステップ5	評価 改善	◇ 幼保小連携の評価改善チェックリストの実施 幼保小連携・接続のための5つの観点から評価を行い、改善を図る。 ①幼保小連携・接続への理解 ②子どもの資質・能力の接続 ③環境の接続 ④人の接続（交流活動） ⑤接続期カリキュラムの作成・実施

【年間の流れ】

月	分類	活動内容
4	校長会・教頭会	○担当校長及び教頭の決定
	事務局	○推進委員の決定 ○各地区の代表の決定 ※地区長は小から、副地区長は幼保から選出（輪番）
5	事務局	○校長会・園長会で昨年度までの経緯や成果と課題の報告をし、今後の計画について提案する。 ※各学校・園で幼保小のコーディネーターの設置
	第1回推進委員会	○推進委員会委員長の選任 ○今年度の計画（年間計画）
	第1回地区別会議（5地区）	○地区ごとに集まり、顔合わせをする。 ※コーディネーターが地区長の学校に集まる。 ※会場と開催日については、事務局で調整する。 ○前年度の活動報告 ○年間行事予定表を持ち寄り、具体的に交流できる行事や学習、時期を計画する。
4～3月	各園・学校で実践	○幼保小連携便り「ステップ」による報告
7～11月	研修会	○年に一度、保育参観・学校参観・講演会のいずれかを実施
12	第2回推進委員会	○交流の様子について ○検討事項について
1	育ちと学びをつなぐ会（3地区） 我孫子駅周辺地区 天王台駅周辺地区 成田線沿線地区	○就学児についての園から学校への引継
2	第2回地区別会議（5地区）	○地区ごとに集まり、成果と課題について振り返る。 ※コーディネーターが副地区長の園に集まる。 ※会場と開催日については、事務局で調整する。
3	第3回推進委員会	○5地区の報告から、今年度の反省をする。 ○検討事項について
	事務局	○「わくわく♥どきどき♥活動集」の作成

【我孫子市幼保小連携協議会設置要綱】

平成 24 年 4 月 27 日（教）告示第 6 号

改正

平成 24 年 5 月 31 日（教）告示第 8 号
平成 26 年 8 月 1 日（教）告示第 4 号
平成 27 年 5 月 1 日（教）告示第 2 号
平成 28 年 4 月 28 日（教）告示第 5 号
平成 29 年 4 月 28 日（教）告示第 1 号
平成 30 年 4 月 27 日（教）告示第 1 号
平成 31 年 4 月 26 日（教）告示第 6 号

我孫子市幼保小連携協議会設置要綱

（設置）

第 1 条 幼稚園、保育園等における幼児期の教育から小学校の教育への円滑な移行を図るため、我孫子市幼保小連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（任務）

第 2 条 協議会の任務は、幼児期から児童前期までを一つの成長期と捉え、幼稚園、保育園、認定こども園及び小学校（以下「幼保小」という。）が連携して、教育の円滑な移行を推進するための施策について協議し、及び検討することとする。

（構成）

第 3 条 協議会は、別表第 1 に掲げる幼稚園、保育園、認定こども園及び小学校で構成する。

（推進委員会及び地区別会議の設置）

第 4 条 協議会に推進委員会及び別表第 1 の地区ごとによる地区別会議を置く。

（推進委員会）

第 5 条 推進委員会は、地区別会議が円滑に機能するための環境整備を行うため、次に掲げる事項について検討し、及び協議する。

- （1）幼保小連携の活動方針に関すること。
 - （2）幼保小連携に関する支援又は教育プログラムの策定に関すること。
 - （3）幼保小連携のための研修に関すること。
 - （4）その他幼保小連携の目的を達成するために必要な事項に関すること。
- 2 推進委員会は、別表第 2 に掲げる委員をもって組織し、当該委員は、教育委員会が任命し、又は委嘱する。
- 3 推進委員会の委員のうち代表者は、各構成機関において選出する。
- 4 前項の代表者の任期は、代表者として選出された月から当該月の属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。
- 5 推進委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- 6 推進委員会は、委員長が招集し、議長となる。

（地区別会議）

第 6 条 地区別会議は、幼保小の連携強化を推進するため、次に掲げる事項について協議する。

- （1）幼保小連携の推進に関すること。
 - （2）幼保小連携に関する情報交換、交流及び研修に関すること。
 - （3）その他幼保小連携に関すること。
- 2 地区別会議は、別表第 3 に掲げる地区委員をもって組織し、当該地区委員は、教育委員会が任命し、又は委嘱する。
- 3 地区別会議に代表及び副代表を置き、地区委員の互選によりこれを定める。

- 4 地区委員の任期は、地区委員として選出された月から当該月の属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。
- 5 地区別会議は、代表が招集し、議長となる。
- 6 副代表は、代表を補佐し、代表に事故あるとき、又は代表が欠けたときは、その職務を代理する。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、教育総務部指導課及び子ども部保育課が共同して処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が推進委員会に諮って定める。

附 則

この告示は、公示の日から施行する。

附 則（平成24年5月31日（教）告示第8号）

この告示は、平成24年6月1日から施行する。

附 則（平成26年8月1日（教）告示第4号）

この告示は、公示の日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則（平成27年5月1日（教）告示第2号）

この告示は、公示の日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則（平成28年4月28日（教）告示第5号）

この告示は、公示の日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成29年4月28日（教）告示第1号）

この告示は、公示の日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則（平成30年4月27日（教）告示第1号）

この告示は、公示の日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（平成31年4月26日（教）告示第6号）

この告示は、公示の日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

別表第1（第3条関係）

地区	構成機関			
	小学校	幼稚園	保育園	認定こども園
我孫子北地区	根戸小学校 並木小学校	二階堂幼稚園	根戸保育園 つくし野保育園 ぽけっとランドあびこ保育園 あびこ菜の花保育園	認定こども園 つくしの幼稚園
我孫子南地区	我孫子第一小学校 我孫子第四小学校	めばえ幼稚園	聖華みどり保育園 寿保育園 アンジェリカ保育園 めばえの森保育園	認定こども園 ひかり幼稚園
天王台地区	我孫子第二小学校 我孫子第三小学校 高野山小学校	エーデル幼稚園	東あびこ聖華保育園 天王台双葉保育園 川村学園女子大学附属保育園 天王台さくら保育園 天王台ななほ保育園 ミルキーホーム天王台園	柏鳳保育園
湖北・湖北台地区	湖北小学校 湖北台西小学校 湖北台東小学校	若草幼稚園 湖北白ばら幼稚園	湖北台保育園 湖北保育園 慈紘保育園 つばめ保育園	認定こども園 湖北台幼稚園 恵愛こども園
新木・布佐地区	新木小学校 布佐小学校 布佐南小学校	布佐台幼稚園	双葉保育園 禮和保育園	布佐宝保育園 認定こども園 わだ幼稚園

別表第2（第5条関係）

小学校長及び教頭の代表各1人 幼稚園長の代表2人 私立保育園長又は認定こども園長の代表1人 市立保育園長の代表1人 市立保育園副園長又は園長補佐の代表1人 指導課長 指導課長が指定する職員1人 保育課長 保育課長が指定する職員1人

別表第3（第6条関係）

地区の小学校長又は当該小学校長が指定する教職員 地区の幼稚園長又は当該幼稚園長が指定する教職員 地区の保育園長又は当該保育園長が指定する保育士 地区の認定こども園長又は当該認定こども園長が指定する保育士

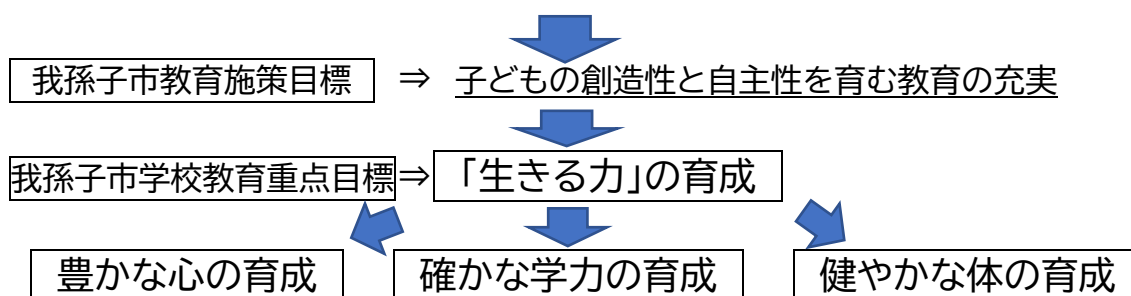
2 カリキュラムの視点

(1) 我孫子市が目指す教育

<我孫子市第四次総合計画>

魅力ある学校づくり ⇒ **子どもがいきいきと輝く学校づくり**

- 育ちと学びの接続を重視し、豊かな人間性や社会性をはぐくむため、幼稚園、保育園、認定こども園と小学校の連携、小中一貫教育を推進します。
- 「地域とともにある学校」として、地域と「目指す子ども像」を共有し、保護者、地域、大学、高校と連携して、自然、歴史、文化、人材などの地域資源を活用しながら、地域全体で子どもの育成を図ります。



カリキュラムは、この3つの視点（「豊かな心の育成」「確かな学力の育成」「健やかな体の育成」）に沿って作成しています。

(2) 小中一貫教育との関連

我孫子市では、「我孫子市の未来を拓く 心輝く教育 ～9年間の連続した学びと小中の協働を通して～」として、小中一貫教育を推進しています。幼保小連携も、この小中一貫教育の方針を念頭に置いて、目指す子ども像を共有し、カリキュラムを考えています。

小中一貫教育において目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども（郷土愛）
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども（未来を拓く力）
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども（輝く心）

三つの重点	要素
「コミュニケーション力」	言語力、発信力、共感・理解力、人間関係力 等
「チャレンジ力」	課題発見力、見通す力、気力、活力、忍耐力 等
「豊かな心」	思いやり、命を大切にする、人の痛みがわかる、自然・崇高なものに感動する力、自己有用感 等

我孫子市の小中一貫教育においては、この「子ども像」を育成するために、「コミュニケーション力」「チャレンジ力」「豊かな心」の育成を三つの重点に定め、基本理念としています。三つの重点にはそれぞれを構成する要素があり、それらを継続的、系統的な指導の中で、バランスよく育てていくことが大切だと考えています。

(3) 実態調査アンケートの実施（当初）

カリキュラムを作成するに当たって、平成25年度にアンケートを実施しました。

○幼稚園・保育園

調査対象：年長クラス担任経験者

調査項目：①学びに関わること（意欲や探究心など）

②心や人間関係に関わること（協調性や道徳性など）

③運動や健康に関わること

④自立や生活習慣に関わること

について

設問1：教育や保育の中で大切にしていること

設問2：それらに関する具体的な活動内容

○小学校

調査対象：過去5年間で第1学年を担当したことのある教職員

調査項目：①知に関して（意欲や探究心など学びに関わること）

②徳に関して（協調性や道徳性など心や人間関係に関わること）

③体に関して（運動や健康に関わること）

④生活に関して（自立や生活習慣に関わること）

設問1：1年生を担当していて感じる子ども達の問題点

設問2：その問題の解消のために、幼稚園や保育園での教育や保育に望むこと

このアンケートの主な回答は次のようになりました。



担任からみた小学1年生の課題



アンケートに記された一人一人の回答を、当初、小中一貫教育と結びつくよう、その三つの重点である「コミュニケーション力」、「チャレンジ力」、「豊かな心」に沿って分類しました。しかし、幼児期ならではの問題点やつけたい力をこの三つの中に入れてしまうことはどうしても不自然であるため、幼児期ならではの内容を「生活する力」として独立させ、且つ三つの力の基礎となるものにとらえて一番初めに位置づけることとしました。つまり、「生活する力」「コミュニケーション力」、「チャレンジ力」、「豊かな心」の四つを我孫子市の幼保小連携の重点としました。また、アンケートで浮き彫りになった子どもの実態から、要素と項目を整理し、目指す子どもの姿を設定し、14ページのように骨子を定めました。

カリキュラムは、この骨子に沿って、活動内容を組み込みました。「方針編」には、(例)として参考となる活動を載せています。各園と学校の具体的な活動内容は、地区ごとの「活動カレンダー編」に掲載しています。幼稚園・保育園・認定こども園の教諭・保育士が「子どもがこれからどのように育つのか」を見通し、小学校教諭は「子どもがこれまでどのように育ってきたのか」を理解し、お互いに学び合うためのカリキュラムになるよう、つながりを見通せるようにしました。

(4) これまでの成果と課題（カリキュラムに関するアンケートより）

平成29年の幼稚園教育要領等の改訂にあわせ、本市のカリキュラム内容についても見直しを行うにあたり、平成31年度（令和元年度）にカリキュラムに関するアンケートを実施しました。各園と学校からは、このカリキュラムを活用して接続期の指導や環境作りを行ったり、交流活動においても活用したりしているとの回答が多く寄せられました。また、カリキュラムを基にテーマを決め、各園や学校での実践を持ち寄るなど、地区別の取組も行っています。

さらに、各園や学校の接続期の担任や担当者が毎年変わる中で、このカリキュラムが参考になっているという声もあり、教諭や保育士の資質向上にもつながっていることがわかりました。

一方で、カリキュラム骨子が示す「目指す子どもの姿」については、各園と学校それぞれに具体的な子どもの姿のイメージが一致しにくいという課題があります。これは、各園にとっては、子どもの育ちに関する目標が「方向性」「目指す姿」であるのに対し、各学校にとっては「到達目標」であるという、認識の差に起因する部分もあります。そこで、幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と、カリキュラム骨子の関連を示すことにより、その姿を具体的に想像し、共有できるようにします。

活動内容については、園と学校の接続を意識することも大切ですが、なによりも子どもの発達段階に合った活動が最も優先されるべきです。特に幼児教育の段階ではあくまでも子どもの自主性を尊重し、遊びを通して学びの芽を育てることが大切です。園での土壌が豊かであればあるほど、その芽は学校で大きく伸びていくと考えます。そして、現場の先生には、育ちの連続性を理解した上で、「今、目の前にいる子どもに必要な支援」を考えてほしいと願っています。

今後は、このことをより一層大切にしつつ、このカリキュラムをそれぞれの園や学校で活用していくとともに、子どもの育ちや学びの段階的な姿を共有したりしながら、さらなる教諭や保育士の資質向上にも役立てていきたいと考えています。

「我孫子市幼保小連携・接続カリキュラム」骨子

重点	要素	項目	目指す子どもの姿	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
生活する力	<u>基本的生活習慣</u>	①持ち物・衛生 ②あいさつ・返事 ③時間の意識	①身の回りの整頓や後片付けを自分でする。 ②大きな声であいさつや返事をする。 ③時間を意識して行動し、けじめをつけて生活する。	①… (1) 健康な心と体 ②… (2) 自立心 (5) 社会生活との関わり ③… (2) 自立心
	<u>健康な体づくり</u>	④食事 ⑤運動	④好き嫌いなく、いろいろなものをたくさん食べる。 ⑤全身を使って遊ぶ楽しさを知り、いろいろな動きができる。	(1) 健康な心と体
コミュニケーション力	<u>伝え合う力</u>	⑥聞く ⑦話す	⑥相手の話を目と耳と心で聞く。 ⑦伝えたいことを適切な言葉や話し方で伝える。	(5) 社会生活との関わり (9) 言葉による伝え合い
	<u>人間関係力</u>	⑧かかわり方 ⑨役割 ⑩約束・きまり	⑧集団遊びを通して友達とのかかわり方を知り、誰とでも楽しく遊ぶ。 ⑨集団生活を通して自分の役割を理解し、分担した仕事をやり遂げる。 ⑩集団生活を通して約束やきまりの大切さを知り、しっかり守って行動する。	⑧… (3) 協同性 (5) 社会生活との関わり ⑨… (2) 自立心 (5) 社会生活との関わり ⑩… (4) 道徳性・規範意識の芽生え
チャレンジ力	<u>学びの基礎</u>	⑪遊びから学びへ	⑪様々な体験を通して、感性や好奇心、探究心、想像力を養う。	(5) 社会生活との関わり (6) 思考の芽生え (7) 自然との関わり・生命尊重 (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (10) 豊かな感性と表現
	<u>気力・忍耐力</u>	⑫努力	⑫目標をもって、苦手なことにもあきらめずに取り組む。繰り返し挑戦する。	(2) 自立心
豊かな心	<u>思いやり</u>	⑬友情	⑬友達を大切にし、良いところを見つける。	(4) 道徳性・規範意識の芽生え
	<u>命や自然を大切に</u>	⑭命の大切さ ⑮自然	⑭動物や植物の世話等を通して、命の大切さに気付く。 ⑮四季折々の自然に触れ、豊かな感性を育む。	(7) 自然との関わり・生命尊重

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

(1) 健康な心と体	園 [※] の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、 <u>見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</u>
(2) 自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、 <u>しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</u>
(3) 協同性	友達と関わる中で、 <u>互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</u>
(4) 道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、 <u>友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。</u> また、 <u>きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。</u>
(5) 社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、 <u>人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。</u> また、園 [※] 内外の様々な環境に関わる中で、 <u>遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになる</u> とともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
(6) 思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、 <u>気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。</u> また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、 <u>新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</u>
(7) 自然との関わり・生命尊重	<u>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。</u> また、身近な動植物に心を動かされる中で、 <u>生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。</u>
(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、 <u>標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</u>
(9) 言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、 <u>豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</u>
(10) 豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、 <u>様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</u>

※「園」…幼稚園、保育園、認定こども園

第2章

幼保小連携・接続カリキュラム

【方針】

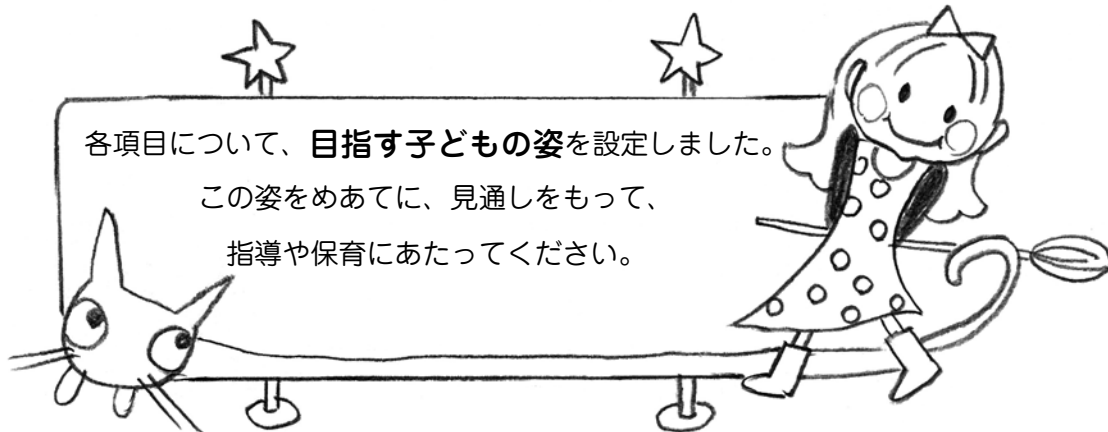


【2章の構成】

◇「目指す子どもの姿」と「スムーズにつなぐ！」は園、学校に共通する内容です。

◇「活動例」と「配慮・工夫」は、見開きの左側のページが園、右側のページが学校に関することです。

1 重点 (1) 要素



スムーズにつなぐ!

各項目について、園と学校の違い=子どもがつまずきを覚えることについてまとめました。特に大切なところは太字・下線で示してあります。

園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				〈例〉		

園でのカリキュラムは、年長の10月～3月です。この方針ページでは、参考例として様々な活動を示しています。これらを参考にして、各園でオリジナルの活動を展開してください。

学校生活に向けた園での配慮・工夫

項目ごとに、学校生活を意識した配慮や工夫についてまとめました。ぜひ指導や保育の参考にしてください。

学校での活動例

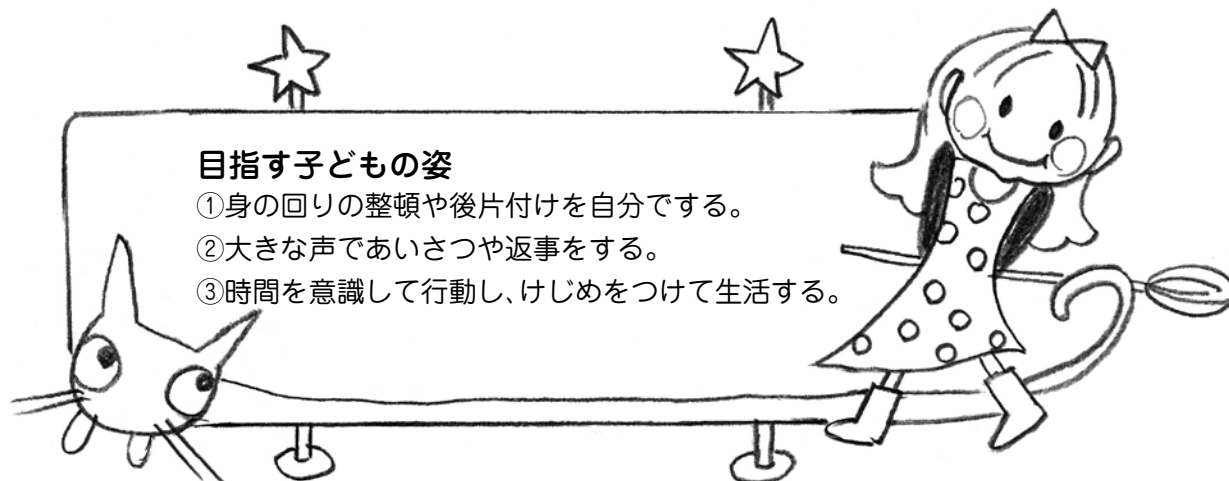
4月	5月	6月
〈例〉		

学校でのカリキュラムは、小1の4月～6月です。この方針ページでは、参考例として様々な活動を示しています。これらを参考にして、各校でオリジナルの活動を展開してください。

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

項目ごとに、園からの接続を意識した配慮や工夫についてまとめました。ぜひ指導の参考にしてください。

1 生活する力 (1) 基本的生活習慣



園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①持ち物・衛生				〃 〈例〉 筆箱を個人で持つ 〈例〉 ハンカチ・ティッシュを携帯する		
②あいさつ・返事	〃 〈例〉 名前を呼ばれたら返事をする。進んであいさつをする					
③時間の意識				〃 〈例〉 午睡の時間を減らしていく		

学校生活に向けた園での配慮・工夫

身の回りの整頓や後片付けを自分でするために・・・

- 基本的な生活習慣については個人差があるので、一人一人に応じた支援を行い、支度、着替え、片付け等自分のことは自分で行うよう促し、身に付いていくように援助していく。
- 試行錯誤しながらも自分から進んで取り組み、できることへの充実感から自信へとつながっていくよう見守ったり援助をしたりしていく。
- 手洗い、うがい、衣服の調節を自発的に行えるように見守ったり、声かけをしたりする。
- ハンカチ、ティッシュの携帯を促す。
- トイレの使い方を確認する。散歩や遠足等を利用し、和式トイレの使用を経験する機会をもつ。

大きな声であいさつや返事をするために・・・

- どんな時にどんな挨拶をすればよいのか、絵本や紙芝居を利用したりしながら皆で考える時間をつくるとよい。
- 職員が手本となるようにしながら、子どもたちに促していく。








時間を意識して行動し、けじめをつけて生活するために・・・

- 日にち、曜日、天気、一日の活動の流れ等を朝の会等で子どもと一緒に確認し、わかりやすく掲示したりボードに書いたりして、一日の生活に見通しをもって行動できるようにする。
- 時間を意識して活動できるように、時計や時計の模型を活用し、「長い針が6になったら終わります」等と、予め伝えておく。
- 活動と活動の間にトイレに行くよう、声をかけながら習慣付けていく。

スムーズにつなぐ!

- ☆子どもは、幼稚園や保育園でも整理や片付けをしてきていますが、小学校に入学し、**たくさんの荷物を自分で管理**することになります。はじめは、そのための時間をとって整理の仕方を丁寧に指導したり、できていることを褒めたりして、園でつけてきた自信を小学校生活につなげることが大切です。
- ☆小学校では学級の友達や多くの教職員、地域の人など、**たくさんの人とふれあう**ことが増えます。家庭や地域などであいさつをする習慣を身につけていない子もいるので、いつ、誰に、どんなあいさつをするか、**幼保小とも一貫して指導**することが大切です。
- ☆基本的に緩やかな時間の流れの中で活動していた園での生活が、就学を境に、**予め決められた時間で区切られたもの**になります。子どもにとっては一日の生活の流れががらりと変わることを十分理解し、園は徐々に小学校のリズムに近づけていく、小学校は入学当初は弾力的な時間の流れにするなど、無理なく45分授業に慣れていくように移行していくことが大切です。

学校での活動例

4月	5月	6月
 〈例〉持ち物の整理の仕方の指導 〈例〉手洗い、うがい、歯磨き等の指導		
 〈例〉道徳「あいさつ」	 〈例〉豊かな人間関係づくり実践プログラム①②※	
 〈例〉弾力的な時間構成での学習	 〈例〉チャイムや時計を意識して行動する	
	 〈例〉道徳「じゅぎょうがはじまりますよ」	

※P21参照

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

身の回りの整頓や後片付けを自分でするために・・・

- 個人の机を管理するのは初めてであるため、一人一人の名前をはっきりと表示し、床に印をつけ、整えやすいようにしておく。
- 持ち物には全てひらがなで記名させ、自分のものを大切に扱う態度を育てる。
- 道具箱の中身、共有物の整理の仕方、傘の扱い方等は図示するなどして丁寧に説明する。
- 入学当初は、自分で管理するものは最小限（教科書・ノート・筆箱・下敷き・上履き・体操服）にとどめる。実態によっては使用頻度の低い物は担任が管理し、必要ときにだけ配付したり、雑巾等は共用にしたりすることも考えられる。
- 手洗い、うがい、歯磨き等の生活習慣に関しては、4月当初に時間を取って手順を指導する。流し等が狭い学校もあるので、スムーズに行えるよう配慮する。
- トイレの使い方を一斉に指導する。（洋式・和式の使い方、使用後水で流す、粗相をしたら始末する）

大きな声であいさつや返事をするために・・・

- 名前を呼ばれたら大きな声で返事をする習慣を付ける。
- あいさつについて、誰にどんなあいさつをすればよいか学級全体で一緒に考える時間を設けるとよい。

時間を意識して行動し、けじめをつけて生活するために・・・

- 入学直後は、弾力的な時間設定を取り入れる。
- 活動の見通しがもてるように、やることを分かりやすく示す。
- 時間を意識して活動できるように、時計や時計の模型を活用し、終了時刻を予め知らせておく。

幼稚園・保育園の生活 園児の姿 【基本的生活習慣】

- 自分の持ち物の管理や整理等をその子なりに行っている。
- 着替え、服の調節や始末、箸の持ち方、食事、トイレの使用、手洗い、うがい等、基本的な身の回りの事を自分で行う。
- 名前を呼ばれて返事をする。
- 親しみをもって挨拶をしたり、その場や状況にあった挨拶ができるようになる。

靴箱



お道具箱



のり・色鉛筆・クレヨン・サインペン等が入っています。

ロッカー



手洗い場



年齢に合わせたトイレになっています。

登園後は自分の持ち物は自分で始末し、タオルやコップ、歯ブラシ等は所定の場所に置き、整理しています。

タオル掛け



ハンカチを使う練習



就学に向け、机を使って着替えの練習をしています。



トイレのサンダルは、並べやすいように目印をつけています。



一週間の予定表



遊びながら箸の練習をしています。

机の配置



- 学用品をはじめ、体操服、上履き等自分で管理する物が多くなり、ロッカーやフック、机の中等に収納している。机の中は道具箱を引き出し式に使い、整理整頓している。
- ハンカチ、ティッシュを携帯して使う。
- 体操服に着替える時は、限られた時間（5～6分）の中で立ったまま素早く着替え、脱いだ服はたたんで椅子か机の上に置くか、袋にしまう。靴は立ったまま履き替え、靴をそろえて靴箱に入れる。
- 休み時間の後や給食の前の手洗い・うがい、食後の歯磨き等の衛生習慣が身に付き、自分で行う。
- トイレは休み時間を利用して済ませる。衣服や下着を全部脱がずに用を足す。
- 「あいさつ運動」等の児童会活動で、あいさつの大切さを知る。
- 基本的に45分間の区切りでチャイムが鳴り、一律に行動する。
- 生活時程に定められた時刻を意識して行動するようになる。



靴箱
かかとをそろえて整理整頓。上履きは上段、下履きは下段。



廊下のフック に体操袋や手揚げ等をかけます。



教室後方の **ロッカー** にランドセル等をしまいます。

大きく名前が表示されています。



一人一人の机

多くの学校のトイレは洋式に改装されています。



お道具箱

- はさみ・のり・色鉛筆・クレヨン・セロテープ・ホチキス・カスタネット・折り紙 等

机の中に収納。全てのものにひらがなで記名します。

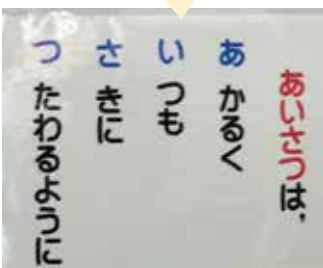
横のフックには、赤白帽子をかけます。

着替え



それぞれの机で、立ったまま着替えます。脱いだ服は体操服袋に入れます。

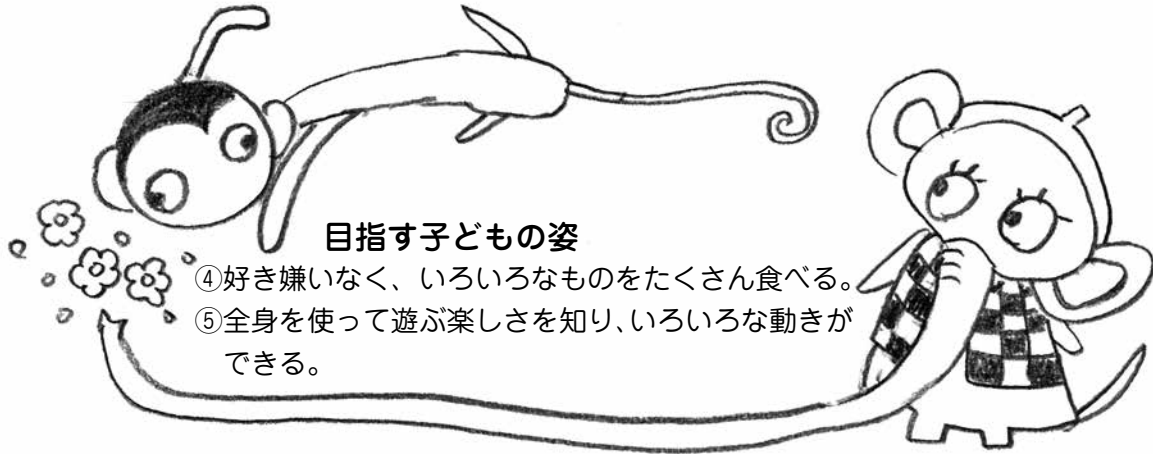
いろいろな台言葉であいさつの大切さを呼びかけています。



「豊かな人間関係づくり実践プログラム」

千葉県の小中学校では、「豊かな人間関係づくり実践プログラム」に取り組んでいます。このプログラムは、社会状況が大きく変化する中で、子ども達が豊かな人間関係を築く力を日常生活で自然に身に付けることが難しくなっているという現状を踏まえ、県教育委員会が作成したものです。プログラムでは、仲間と仲良くして助け合うための具体的な行動の仕方を学びます。1年生では、①あいさつじょうずになろう！ ②もっとあいさつじょうずになろう！ ③ききじょうずになろう！ ④もっとききじょうずになろう！ の4回の授業が組まれており、幼保小連携にもぴったりの内容です。

1 生活する力 (2) 健康な体づくり



園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
④食事	〈例〉 食事に関する絵本を読む			〈例〉 給食は決まった時間に食べ終わる		
⑤運動	〈例〉 縄跳びや鬼ごっこをする					

学校生活に向けた園での配慮・工夫

好き嫌いなく、いろいろなものをたくさん食べるために・・・

- 食べ終わりの時間を知らせ、一定の時間（30分を目安として言葉をかける）で食べ終わるように働きかけていく。（「長い針が○になったら、終わりの時間になる」という言葉かけをする。）
- 野菜の栽培を通して食材に興味をもち、好き嫌いなく食べられるようにしていく。苦手な物でも減らしながら、少しでも食べられるようにする。
- 箸の使い方、食器の持ち方、正しい姿勢で食べる等食事のマナーを知らせ、身に付くようにしていく。
- お弁当には、バランス良くいろいろな食べ物を入れてもらうよう保護者への協力を呼びかける。
- アレルギー対応に関して、基本的には医師の診断を書面で提出してもらう。
- 早寝（20～21時）・早起き（6～7時）・朝ごはんの大切さを保護者に伝えていく。

全身を使って遊ぶ楽しさを知り、いろいろな動きができるために・・・





- 戸外で思いきり全身を動かして遊ぶ経験ができるようにしていく。
- 園庭だけでなく、散歩を通して公園等自然環境の豊かな場所に出かけ、戸外での遊びが豊かになっていくように工夫していく。
- 教職員も遊びの輪に入り、共に体を動かす楽しさを感じるようにする。
- マット、ボール、鉄棒、跳び縄等を使った遊びや、リズム的な運動等を遊びの中に取り入れながら、いろいろな動きが経験できるようにする。

スムーズにつなぐ!

☆園では子ども達がいろいろなものを食べられるよう様々な工夫をしています。時間をかけることもその一つです。園でたくさん食べてきた自信を小学校につなげるためにも、4月当初は弾力的に**食事時間を長く取る**等の配慮が必要です。また、子どもによっては1食分の牛乳の量が多すぎる場合もあります。牛乳のために給食自体が苦手になることがないよう、少しずつ飲める量を増やす等、児童の負担にならない指導が望まれます。

☆体力低下を防ぐためには、幼児期に基本になる動きを踏まえた運動を、**遊びを通して**経験させることが大切です。

学校での活動例

4月	5月	6月
 〈例〉苦手なものも量を調節して食べる	 〈例〉食事時間を短くしていく	
 〈例〉体育の時間に、「36の基本の動き」に関連した体ほぐし運動を行う		

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

好き嫌いなく、いろいろなものをたくさん食べるために・・・

- 最初のうちは、ゆとりをもてるよう給食の開始時間を少し早めにする。担任以外に専科の教員や6年生が補助に入る。最終的な目安…準備15分・食事20分・片付け10分
- 苦手なものでも全て残すことのないようにする。一方、偏食・少食傾向にある児童には、一人一人に対応して給食に対するストレスを減らし、徐々に食べられる食品や量が増えるように支援する。
- 話すことに夢中になったり、遊びながら食べたりしないよう、食事のマナーについても指導する。
- 後片付けがしっかりできるよう、入学当初は特に時間を取って指導する。
- 早寝・早起き・朝ごはんの大切さを保護者に伝えていく。基本的な生活習慣にも通じるが、学校のリズムある生活に慣れたり健康に過ごしたりするために、家庭でも、起床、食事、入浴、就寝の時刻をきちんと決め、同じリズムで生活することが大切であることを伝える。なお、この時期の児童には、9～10時間の睡眠、始業2時間前の起床が望ましいので、夜9時までには就寝し、朝6時半までに起床することを家庭に呼びかける。また、朝の登校前に家で用便を済ますことも伝える。

全身を使って遊ぶ楽しさを知り、いろいろな動きができるために・・・

- 「36の基本の動き」を意識するのもよい。(P65～参照)
- 同じ姿勢が保持できるよう、体育の時間以外でも心がけ、声をかけるようにする。
- 週に何度か学級全員で外で遊ぶ時間を設ける。
- 安全面の十分な配慮をする。(器具や遊具の使用法、準備運動、水泳指導での水の深さ、遊びのルール等)

幼稚園・保育園の生活 園児の姿 【健康な体づくり】

- 一定の時間で給食を食べ終わる。
- 戸外でたくさん遊び、体を動かすことを楽しむ。
- いろいろな運動を経験し、全身を動かして遊ぶ。
- 鬼ごっこ、集団遊び、リレー等友達と一緒に楽しんで遊ぶ。

園庭の遊具



ぐるぐる回ったり、坂を転がり降りる等、回転的な運動や、持久的な運動等、いろいろな動きを経験することが大切です。

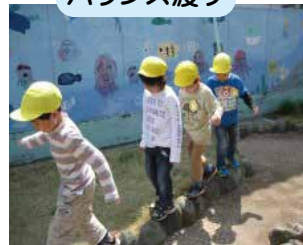


広い校庭で全力疾走

土手滑り



バランス渡り



30分を目安に食べ終わるよう言葉かけをしています。

給食



給食・おやつ一人分



お弁当一人分

野菜の栽培、収穫、調理を通して食べ物に興味や関心がもてるようにしています。

給食は残さず食べられるよう、量を自分で選んでいます。



芋掘りの後、さつまいもを使ってクッキング。



「早寝早起き朝ごはん」生活リズムは大切です。



小学校の生活 児童の姿 【健康な体づくり】

- 給食は決められた献立を20分程度で食べる。食べる前に量を調節し、時間までに残さず食べるようにする。
- 給食の準備・配膳・片付けは、班を単位にした当番活動となり、自分達で行う。
- 体育の時間だけでなく、休み時間に校庭の遊具や一輪車等、器具や道具を操作して遊ぶことが増える。
- 目的に合わせて、体のバランスを取ったり力の加減を調節したりして運動できるようになる。
- 体力が向上するとともに、けがの防止や良い姿勢の保持を意識することができるようになる。

配膳風景



給食



牛乳 200ml



1年生にとって、磁器の食器はとても重いものです。それらをいっぺんにお盆で運ぶことは、初めての経験となります。

給食のスケジュール



配膳台は、係や当番が毎日きれいに拭きます。



良い姿勢を保持することも大切な力です。

週に数回、昼休み等を使ってレクをすると、子供の情緒の発達や体力の育成、学級づくりに効果があります。

学級レク



休み時間には外でいろいろな運動をして遊ぶことが大切です。

鉄棒



タイヤ跳び



ジャングルジム



四小月例リレー

ドッジボール



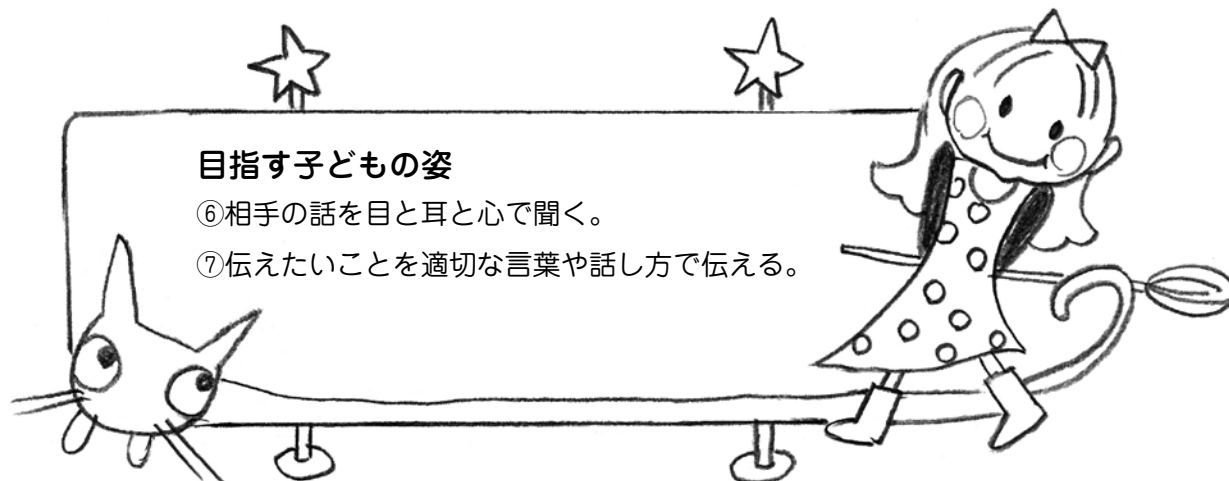
長縄跳び



フラフープ



2 コミュニケーション力 (1) 伝え合う力



園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
⑥聞く	→					
		〈例〉読み聞かせ				
⑦話す	→					
	〈例〉発表会に向け何に取り組むか皆で話し合う					

学校生活に向けた園での配慮・工夫

相手の話を目と耳と心で聞くために・・・

- 話を聞くときは、話している人に体を向け、良い姿勢で話し手の顔を見ながら最後まで集中して話が聞けるよう習慣付けていく。
- 普段の生活の中でも、読み聞かせや素話を聞く等、静かに集中して話を聞く時間を意識してつくる。
- クラスやグループで話す機会をもちながら、友達の話の聞けるようにしたり、自分の言いたいことを言葉で表現できるようにしたりしていく。




伝えたいことを適切な言葉や話し方で伝えるために・・・

- 困っていることや思っていること等、自分の気持ちを自分から伝えられない子には、個人差に応じて職員が言葉をかけて気持ちを引き出し、思いを伝えようとするようになっていけるよう働きかけていく。
- 遊びの中で「遊ぼう」「いいよ」、「ごめんね」「いいよ」等、会話のキャッチボールができるよう援助していく。
- 「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言えるようにする。
- 乱暴な言葉等、自分が言われて嫌な言葉は使わないよう促していく。
- いろいろな場面で、人前で話す経験を多くもてるようにする。また、人前で話すことが苦手な子もいるので、個人差に応じて対応していく。

スムーズにつなぐ!

- ☆就学に際しての大きな違いは、子どもが接する**人数が多くなる**ことです。園に比べて小学校では特に集団の中の一人として話を聞いたり、何かを伝えたりすることが増えます。
- ☆集団でも一対一でも、聞くときは相手の話を最後までしっかりと聞くこと、話す時は言うべきことを適切な言葉遣いや話し方で伝えることを、園でも学校でも**一貫して**指導することが大切です。また、できていない子どもには、繰り返し個別の指導も必要となります。

学校での活動例

4月	5月	6月
 〈例〉読み聞かせを行う	 〈例〉豊かな人間関係づくり実践プログラム③④※	
 〈例〉朝の会で自己紹介スピーチを行う		

※P21参照

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

相手の話を目と耳と心で聞くために・・・

- 文字が十分に書けない入学直後の生活や学習は、「聞く・話す」を中心に進むため、人の話をしっかり聞くことの大切さをはじめに十分に指導するようにする。
- 読み聞かせ等、担任や図書ボランティアの話を落ち着いて聞く場面を意図的・計画的に数多く設定する。
- 読み聞かせを聞く際は、自席に着席した隊形でなく、みんなで集まって床に座ったり、椅子だけを寄せて座ったりするなど、園で経験した隊形を取り入れるなどの工夫をする。
- 「一時に一事」の原則を守り、一度に多くの指示を与えないようにする。
- 良い姿勢や集中力が続くよう、はじめは短い時間の話や指示を心がける。

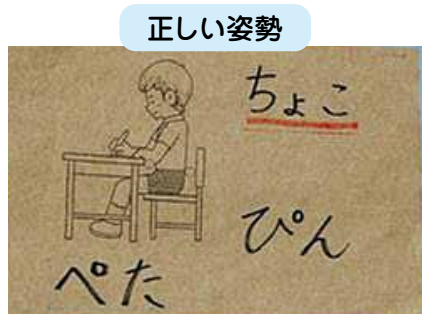
伝えたいことを適切な言葉や話し方で伝えるために・・・

- 朝の会や帰りの会の司会や簡単なスピーチ等、授業以外の時間も活用して一人一人が話す機会を設ける。
- 「ありがとう」や「ごめんなさい」を必要な場面で言えるように指導する。特に「ごめんなさい」と言えたことをほめる。
- 優しい言葉遣いで話せるように指導する。
- 乱暴な言葉等、自分が言われて嫌な言葉は使わないよう促していく。
- 嫌なことをされた時に、「嫌だ」という気持ちをはっきりと伝えられるように練習しておくのもよい。
- 困ったことがあった時に、自分から聞く等、援助要求が出せるよう、促す指導を心がける。

幼稚園・保育園の生活 園児の姿 【伝え合う力】

- 話を聞く時は、話している人の顔を見て話を聞き、大体の子は最後まで話を聞くことができるようになってくる。
- 職員や友達言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり話したりする。
- 生活発表等でみんなの前で話をする。
- 自分で考えたことを、自分なりに相手に伝えたり、質問をしたりする。
- 友達と言葉のやり取りをしながら遊びを進めていく。
- 「ありがとう」「ごめんなさい」が言えるようになる。

普段の生活の中で、絵本や紙芝居等の読み聞かせや、素話を聞く等静かに集中して話を聞く時間を意識してつくっています。



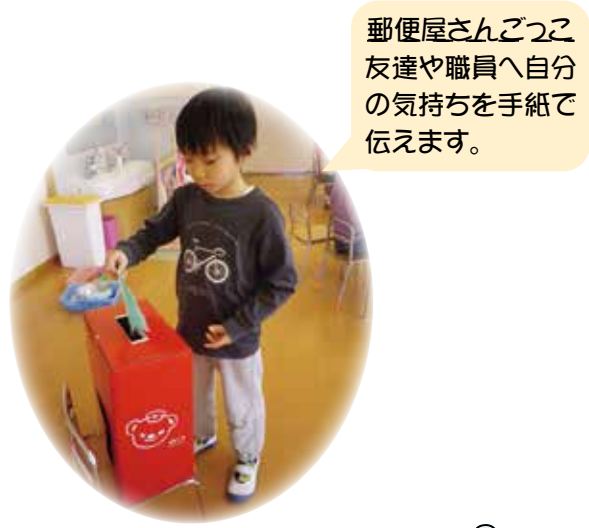
正しい姿勢



正しい姿勢で椅子に座り、集中して話を聞いています。



皆で相談しながらお話を作り、表現しています。



郵便屋さんごっこ
友達や職員へ自分の気持ちを手紙で伝えます。

声のものさし
どんな時にどの位の声の大きさが適当かを、ものさしでわかりやすく示しています。



ことば遊び
しりとり・伝言ゲーム
手遊び・早口ことば
等、遊びを楽しみながら言葉を習得していきます。

小学校の生活 児童の姿 【伝え合う力】

- 発問や指示など、主に耳からの言語情報を基に学習したり行動したりする。
- 一対一で話を聞くだけに限らず、教師の全体への話にも集中することができるようになる。
- 話を聞く時には体と視線を向けて、話し手の話を最後まで黙って聞く（うなずいたり返事をしたり等の反応は返す）。
- 自分が伝えたいことは、自分から担任や友達に伝える。
- 教室では、話したいことや質問したいことを、挙手をして指名されてから話す場面が多い。
- 聞き手の人数に合わせて、声の大きさを調節して話す。
- 自分自身の経験や考えを発表する場面が入学当初からあり、徐々に人前で話すことが多くなる。

全校朝会 等集団で話を聞く機会が増えます。



読み聞かせ



「目」と「耳」と「心」で聞こう！

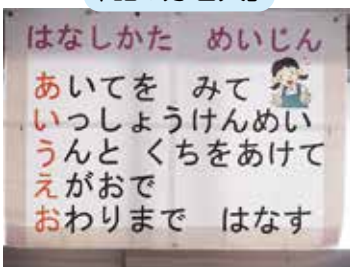
「聞き方名人」



聞く姿



「話し方名人」



話す姿



「声のものさし」



小学校でも、朝の時間や国語の授業で担任やボランティアによる絵本の読み聞かせをする学校がたくさんあります。教科書に出てくる物語と同じ作家のかいたもの等、学習に関連した本を選ぶようにしています。

フワフワ言葉とチクチク言葉

小学校では、1年生に限らず、言われて嬉しかった言葉（フワフワ言葉）と悲しかった言葉（チクチク言葉）について、学級のみinnで考える実践がよく見られます。言葉によって気持ちが温かくなったり落ち込んだりすることを確認し、友達と接するときは温かくなる言葉を使おうと呼びかけます。

ありがとう

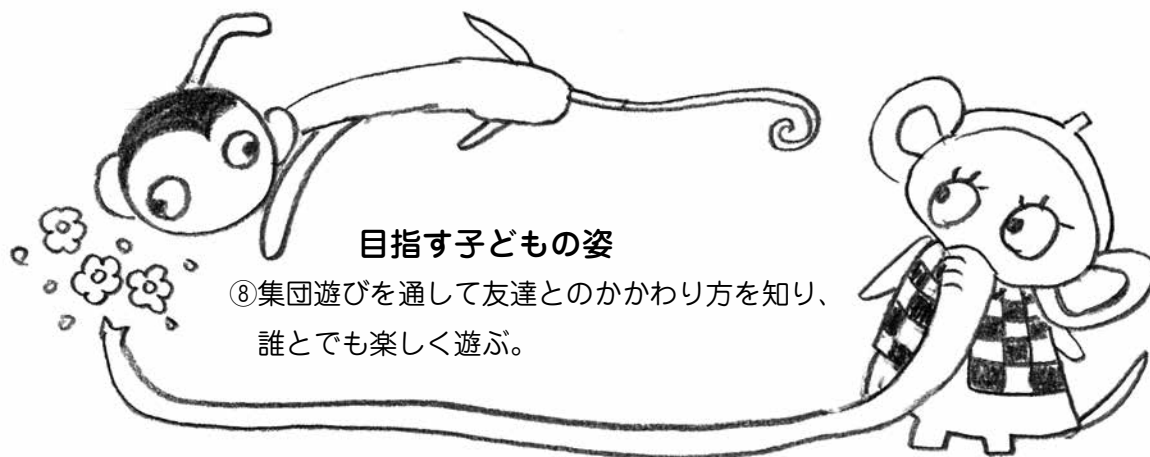
どんまい!

ばか!


だいじょうぶだよ どうしたの?

うるせえ!

2 コミュニケーション力 (2) 人間関係力①



園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
⑧かかわり方		 〈例〉ドッジボール・鬼ごっこ・リレー・長縄跳び等で遊ぶ				

学校生活に向けた園での配慮・工夫

集団遊びを通して友達とのかかわり方を知り、誰とでも楽しく遊ぶために・・・

- いろいろな子とかかわって遊べるような活動を多く取り入れ、仲よく楽しく遊ぶ経験がたくさんできるようにする。
- 集団遊びをする中で、ルールやきまりがあることを知り、守ろうとしながらみんなで遊ぶ楽しさが実感できるようにする。
- 人にかかわる力の基礎として、自分を認めてもらっているという安心感が大切なので、教職員が一人一人を十分に認めながら、友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わえるようにしていく。
- 言われたりやられたりしたら嫌なことや嬉しいこと等、善悪について日常の中で繰り返し知らせ、考えながら行動できるようにしていく。
- トラブルが起きた時には、教職員はお互いの思いを相手に伝えられるように園児を支援し、どうしたらよいか、自分達で解決できるよう導いていく。
- 自分が中心になって活動したら次は他の友達に譲る、という気持ちを集団生活や遊びの中で育てていく。
- 集団の中で楽しく遊ぶためには、自分の気持ちを抑えなければいけない時があることに気付けるようにする。
- 長縄跳びや砂場での山作り等、友達同士で協力し、みんなで工夫して遊ぶ経験ができるようにしていく。
- 二人組、三人組等いろいろな友達とかかわって遊ぶ経験ができるように活動を設定する。

スムーズにつなぐ!

☆成長するにつれ広く深く多様になる人間関係づくりの基礎として、まずは仲良しに限らず誰とでも広く良好な関係を築く力の育成が重要です。そのためには、幼児期に友達とかかわる楽しさを十分に味わわせることが大切になります。遊びや活動等実際の生活場面を通して、友達と楽しくすごすためにはルールやマナーがあることに気付かせ、実践につなげましょう。発達等による個人差が大きいので、一斉指導と個人への支援を組み合わせながら、幼保小一貫して粘り強く働きかけていくことが大切です。

学校での活動例

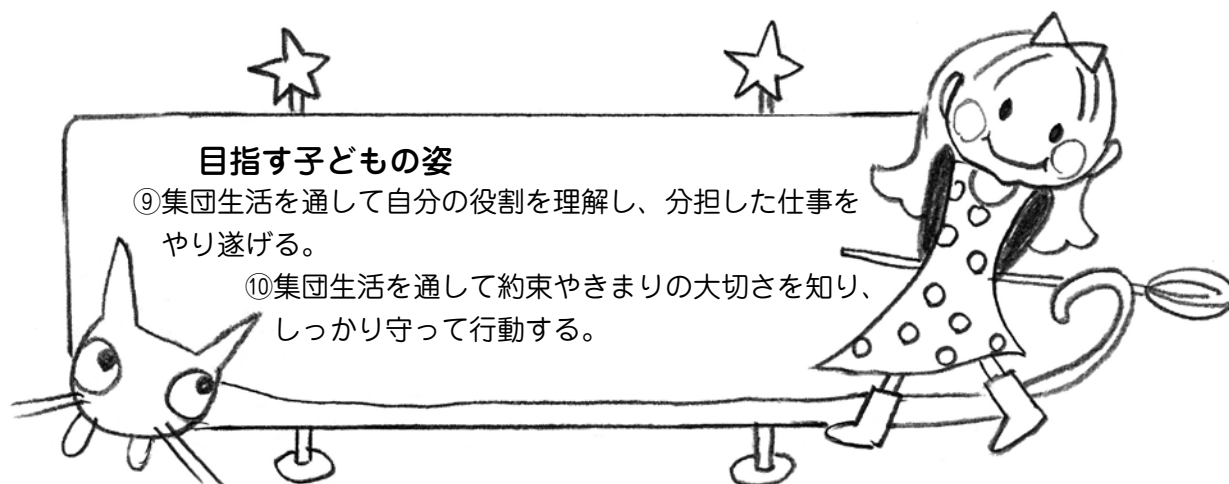
4月	5月	6月
<p>〈例〉学習の中で二人組での活動を増やす</p>		
<p>〈例〉学級レクを週に2度行い、遊び方を振り返る時間を取る</p>		

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

集団遊びを通して友達とのかかわり方を知り、誰とでも楽しく遊ぶために・・・

- 入学当初は、対人関係の不安を考慮し、担任との信頼関係づくりや隣の席同士の関係づくりを心がける。
- 同じ園出身の児童を十分に把握し、席替えやグループ分けなどの際に考慮する。学級活動や学習の中で、出身の園が違う児童同士のグループをつくって友達づくりにつながるゲームを意図的に取り入れる等、基本的には広い人間関係づくりを目指す。
- 学習時間や休み時間には、簡単なゲームやリレー遊び、鬼ごっこ等、友達とのかかわりやルールがある活動や遊びを行うようにする。はじめは担任がかかわり、徐々に担任と児童及び児童同士の関係を深めていく。遊びの後には振り返りの時間を取り、ルールの必要性や大切さに気付かせるとよい。
- 二人組やグループでの活動を通して、適切な言葉遣いや約束を守ること、わがまを言わないこと等、良好な人間関係をつくるためのルールやマナーの大切さについても気付かせるようにする。
- いざという時に役立つために、友達への声のかけ方や謝り方について練習する場を設けるとよい。
- トラブルが起きた時には、担任は、子ども達に解決の仕方を学ばせるように心がける。その際には、お互いの話をよく聞くこと、自分の悪かったところを認めて謝ること、相手を許すことを大切にする。
- 児童によっては、叱られたり笑われたりすることから逃れるために、うそをついたりごまかしたりすることもある。いけないことをしてしまった時には、その行為は叱るが、非を認めた態度は肯定的に受け止める等、正直で素直に生活することの大切さが理解できるように配慮して指導する。

2 コミュニケーション力 (2) 人間関係力②



目指す子どもの姿

- ⑨ 集団生活を通して自分の役割を理解し、分担した仕事をやり遂げる。
- ⑩ 集団生活を通して約束やきまりの大切さを知り、しっかり守って行動する。

園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
⑨ 役割		→			→	→
	〈例〉行事（運動会・お遊戯会）での自分の役割を果たす			〈例〉当番活動をする		
⑩ 約束・きまり	→			→		
	〈例〉誕生日会等の集会、避難訓練に参加する				〈例〉卒園式の練習をする	

学校生活に向けた園での配慮・工夫

集団生活を通して自分の役割を理解し、分担した仕事をやり遂げるために・・・

- 当番活動は、子ども自身が積極的に行おうとする気持ちをもてるように進めていく。教職員は、子ども自身が自分からやろうとする意欲、自分でやりとげる充実感や満足感が味わえるように励ましたり、援助をしたりする。
- 行事等を通して自分の役割がわかり、責任をもってやり遂げようとする気持ちが育つよう働きかけていく。
- 友達と一緒に活動する中で、子ども同士力を合わせて取り組み、工夫し合ったり、協力したりしながら共通の思いや目的が生まれ活動が広がっていくように、教職員は環境を整えその場に応じた援助ができるようにしていく。

集団生活を通して約束やきまりの大切さを知り、しっかり守って行動するために・・・





- 遊びや生活を通してきまりを守ることの大切さに気付けるよう働きかけていく。なぜきまりを守らなければいけないのか、守らないとどうなるのかを教職員が知らせながら、きまりを守ろうとする気持ちをもてるようにする。
- してよいことと悪いことがあることに気づき、自分で考える姿を認めながら、教職員はその時々に応じてよいことと悪いことについて明確に示していく。
- 生活環境や家庭での教育も変化しているので、自分をコントロールする力は園でも育てていく必要がある。また、一人一人の状況に合わせた援助を行っていく。
- 卒園式や集会等では一定時間静かに座っている等、その場にふさわしい態度が身に付くようにしていく。

スムーズにつなぐ!

☆園で職員と一緒にすることが多い当番活動は、小学校では**子どもが自分で**気付いてやり遂げるものに変わります。また、当番とは別に係活動にも取り組みます。当番や日常の係活動、行事の係活動等、数も多く内容も多岐に渡ります。幼保小とも、**責任感**の大切さとやり遂げた**達成感**を味わわせることが次の意欲につながります。

☆学校は集団生活が基本となり、学校や学級のきまり、休み時間の約束、遊びの約束等を守ることが集団生活の基礎となっています。園や学校の生活の中で**きまりを守ることの必要性や大切さ**に気付かせることが、学校で安全に楽しく過ごせることにつながります。

学校での活動例

4月	5月	6月
 〈例〉当番活動・係活動等を通して、役割分担や責任感の大切さを学ぶ		
 〈例〉学校生活でのきまりを守る意味を考える	 〈例〉わたしたちの道徳「自分でやることはしっかりと」	 〈例〉今月の生活目標「雨の日の約束を守ろう」を意識して生活する

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

集団生活を通して自分の役割を理解し、分担した仕事をやり遂げるために・・・

- 当番や係の活動、清掃等を通して、自分の役割をやり遂げることで、人の役に立つ喜び、やりがい、自分の成長等を感じられるようにする。園での体験も想起させる。
- ほうきや雑巾の使い方等、清掃用具の使い方を丁寧に指導する。また、活動の内容は、掲示物等を工夫して明確に示すようにする。担任だけでは指導しきれない清掃等は6年児童に手伝ってもらう。
- 係や当番活動は、簡単な内容のものを確実にやり遂げるようにさせる。チェック表等を利用して反省の場を設けたり、活動の状況を確認したりして、できたらほめて認めるようにする。
- 自分から気付いて取りかかったり、助け合っ活動したりしている姿を学級全体に紹介する等、良い活動のモデルを示すようにするとよい。

集団生活を通して約束やきまりの大切さを知り、しっかり守って行動するために・・・

- なぜ約束やきまりを守らなければならないのか、その必要性に気付かせるようにする。
- 生活や遊びの約束やきまりは、はじめは最小限のものに限定し、徐々に増やしながらかそれらのことを意識して行動できるようにする。約束やきまりを守って行動できたことを認め、励ましていく。
- ノートを忘れた時には用紙をもらう、教科書を忘れた時は友達に見せてもらう等、困った時の具体的な行動の仕方を一つ一つ指導する。
- この時期の児童は、善悪の判断や具体的な行為については、周囲の大人の影響を受ける部分が大いので、教師は判断基準や取るべき行為を明確に分かりやすく示すことが大切である。
- まだ集団生活に慣れていないために、引っ込み思案になったり物怖じしたりすることもあるが、行ってよいことと悪いことについては理解できる時期なので、よいと思ったことは遠慮しないで進んで行うことができるよう励まし、援助する。

幼稚園・保育園の生活 園児の姿 【人間関係力】

- 集団生活を通して、自分の役割を理解する。
- 行事に向けて友達と協力し、やり遂げる喜びを味わう。
- 友達とのかかわり合いを深め、思いやりや仲間意識をもつ。

ルールのある集団遊びを楽しみながら友達とのかかわり方を知っていきます。その中で自分の思いを伝え合いながら、いろいろな考え方がることがわかり、トラブルが起きた時には、自分達なりに解決しようとするようになっていきます。

リレー



ドッジボール



友達と一緒に協力し、試行錯誤しながら遊びを展開していきます。



長縄跳び・綱引き
友達と協力し、力を合わせて取り組みます。

避難訓練



当番活動では、朝の会や帰りの会を進めたり、昼食時にはメニューを読みあげたりしています。



小学校の生活 児童の姿 【人間関係力】

○小学校学習指導要領（平成29年）では、「児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」が求められており、低学年でもペア活動、グループ活動等、友達と関わりながら活動・学習する機会が増えていく。

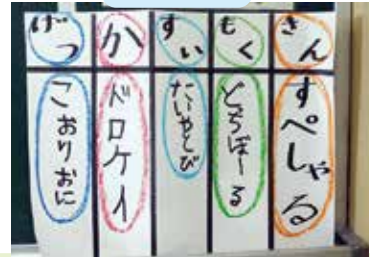
ペア学習



グループ学習



学級レク



- 縦割り活動では、異年齢の友達とのかかわり方を学習したり、集団生活の意識を高めたりしている。
- 基本的には、男女とも「～さん」つけて呼名する。
- 守らなければならないいきまりは、「○○小の約束」といった一覧にまとめている学校が多い。
- 全校朝会や校外学習等では、整列して移動したり、長時間よい姿勢で話を聞いたりする等、場にふさわしい態度をとることが要求される。
- 小学校では、学級内での係や当番活動、グループ学習、行事等、集団でめあてをもち、友達と協力して活動することが増える。時には、自分の気が向かなくても友達と力を合わせなければならないこともあり、特に自分勝手な行動や態度は教師や友達から注意を受ける。

学級レクを週に複数回行うと、遊びながら友達とのかかわり方を学ぶことができ、温かい学級づくりに効果的です。



「1年生を迎える会」では、6年生と手をつないで入場。

給食当番



係分担表

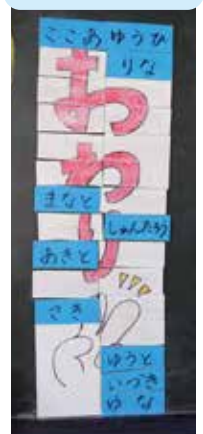


○学校には毎日清掃の時間があり、分担した場所を責任もって清掃する。

係の仕事



係活動点検表



清掃分担表



班ごとの分担がよく見られます。

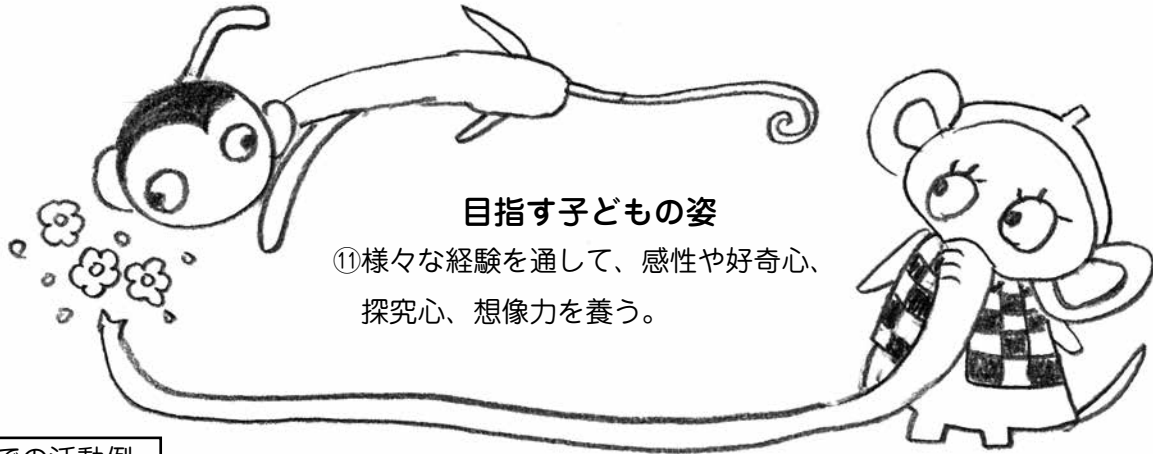
清掃風景



自分の仕事が終わったらカードを裏返す。全員のカードが返ると、文字が完成します。



3 チャレンジ力 (1) 学びの基礎



園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①遊びから学びへ	→					
	〈例〉散歩や園庭等で遊び、自然に触れてたくさん遊ぶ					
	→					
	〈例〉絵本や紙芝居等を読んでもらう					
	→					
〈例〉廃材遊びをする						
→						
〈例〉トランプ遊びをする						
→						
〈例〉学校見学をする						

学校生活に向けた園での配慮・工夫

様々な体験を通して、感性や好奇心、探究心、想像力を養うために・・・

- いろいろなものを見たり経験したりする中で、「楽しかった!」と思える体験がたくさんできるようにする。
また、子ども達のやる気を引き出していくように教職員が声をかける。
- 散歩や園庭遊びで、自然に触れながらたくさん遊び、興味や好奇心が広がっていくようにしていく。
- はじめから答えを与えず、試行錯誤しながら工夫して遊びを展開していけるような活動を取り入れていく。
- クラスに凶鑑等を置き、興味をもったものをすぐに調べられるようにしておく。
- 製作活動は集中して取り組めるよう、設定や環境を工夫する。
- いろいろな素材に触れながら、楽しんで製作活動が行えるようにする。
- 自分で読んだり読んでもらったりする中で、童話や昔話等沢山の本に触れて親しむ機会をつくり、想像の世界が広がるようにする。また、自分で好きな絵本を選んで読めるよう絵本コーナーを設ける等、環境を整えるとよい。
- 毎日の生活でカレンダーや時計等を見たり、トランプやカルタ遊び等から数字や文字に触れたりすることで興味や関心が広がっていくようにしていく。また、時計は数字の隣に「△□ふん」と掲示をする等、わかりやすく、理解しやすいように工夫をする。
- 日にちを読みあげたり、人数やプリントを数えたりすることによって数を意識できるようにしていく。
- ゲーム等を行う中で勝敗を決める際に数を数えたり、量を比べたりする経験ができるようにする。
- ことば遊び(しりとり・伝言ゲーム・手遊び)を通して、言葉のやりとりを楽しむ。また、遊びの中で子ども達が考えて発表(手を挙げる練習)をする機会をつくっていく。
- 絵を描く時等は、ペンやクレヨン、色鉛筆等を用途に合わせて選び、持ち方にも配慮する。
- ぬり絵遊びは筆圧や丁寧さ、色の感覚を育てるのに有効である。
- 学校見学に行ったり、学校ごっこをして遊んだりすることで小学校への憧れの気持ちを持ち、就学への期待が膨らむような活動を取り入れていく。

スムーズにつなぐ!

☆就学を境に、園での遊び中心の生活から教科学習中心の生活へと、子どもの生活スタイルは大きく変わります。園で生まれた「遊びの中の『学びの芽』」を小学校で大きく育てるには、入学直後は生活科を中心とした合科的な指導を展開し、徐々に教科等の学習活動への接続を図ることが大切です。

学校での活動例

4月	5月	6月
〈例〉生活科中心の合科学習 「がっこうとなかよし」	〈例〉教科の枠組みを基本とした学習	
〈例〉ひらがなの学習		
「10までのかず」	「なんばんめ」	「いくつといくつ」 「たしざん」 「ひきざん」

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

様々な体験を通して、感性や好奇心、探究心、想像力を養うために・・・

- 授業では、児童の興味や関心を高める導入を丁寧に行う。
初めて学ぶ事象…「おもしろい!」 問題…「解いてみたい!」 課題…「やってみよう!」
- 児童の学びを丁寧に見取って、ほめたり励ましたりして、学ぶ楽しさや自信をもつようにする。
- 授業の終わりには、できるようになったことやがんばったことなどを具体的に話し、子ども達に成長を実感させ、次の意欲につなげるようにする。
- 学習に集中して取り組めるよう、時間の設定に考慮したり教室環境を整えたりする。
- 園で共通して経験したことのある集団遊びや手遊び等を取り入れ、安心して自信をもって取り組むことにより、心をほぐし、学習につなげていく。
- 入学当初は、生活科を中心にした合科的な指導やモジュール構成を取り入れたりする。週ごとにテーマを決めることも効果的である。
- 教室で学んだことを活用できる場面を設定する。(算数での「3」の学習の後、レクの集合ゲームで3人グループをつくらせる等)
- はさみや水のり等の用具の使い方は、繰り返し指導するようにする。手先等の器用さには大きな個人差があるので、焦らず見守り、「作りたい」という気持ちを大切にできるようにする。
- したことや見つけたことは、絵に描いたり話したりして表現することを大切にし、書くことは負担にならない程度にとどめる。
- 連絡帳は入学当初はプリントを貼らせ、ひらがなの学習を考慮しながら徐々に書く量を増やす等の配慮をする。
- 短い文章でまとめたり、実物投影機等を利用したりする等、ノート指導の工夫を心がける。
- 持ち物の確認等、保護者の協力を得られるよう、学級だより等を利用して呼びかけるようにする。

- 園庭や散歩に出かけ、様々な自然に触れる。
- 自然物から興味関心が広がっていき、好奇心、探究心が育っていく。
- 生活や遊びの中で数や文字に触れていくことで、自然に数字や文字に興味をもつようになる。



園庭、散歩等戸外でたくさん体を動かして遊んでいます。



かるた遊び



自分のはさみとのりを使い製作しています。(水のりは就学に向けての練習)

製作は集中してできるように環境設定しています。

興味をもったり、育てたりしている植物や虫等をすぐに調べられるように、図鑑を用意しています。



時計の時間がわかるよう、読み方を掲示しています。



広告の裏や書き損じの紙を使い、レターセットや絵本、紙バック等を工夫しながら作っています。

日にちの掲示



小学生との交流

交流の中で、小学校の見学をし、学校への憧れの気持ちが芽生え、入学への期待が膨らんでいきます!!



小学校の生活 児童の姿 【学びの基礎】

- 入学後、ほどなくして学習を中心とする生活になり、教科書を使って系統的に学習する。
- 入学当初から、自分の名前を読んだり書いたりする。
- 自分の考えを友達や担任に話したり、絵や文字でかいたりする活動が始まる。

正しい鉛筆の持ち方



1コマの中では、子ども達の集中力が続くよう、10～15分の短い学習活動を組み合わせて授業を組み立てています。

1年生の「日課表」

幼児期の教育との連携・接続については、生活科を中心に教育課程全体で取り組むことが明示されました

(小学校学習指導要領解説 生活編より)

☆「幼児期の教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。」(第1章の2 生活科改訂の趣旨及び要点(1) 改訂の趣旨より)

☆「(前略) この(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿) 手がかりを基に、小学校入学当初において生活科を中心としたカリキュラムのデザインを行うことで、小学校へ入学した児童が、安心して学校生活を送るとともに、自信を持って成長し、学習者として確かに歩んでいくようになることが期待される。」(第4章の1 指導計画作成上の配慮事項より)



生活科・学校探検

国語では、まずはひらがなの学習に時間をかけて取り組みます。



算数では、半具体物(ブロック等)を使って考えます。



良い姿勢で音読。



授業風景



学習問題(学習課題)を明確にして学習を始めます。

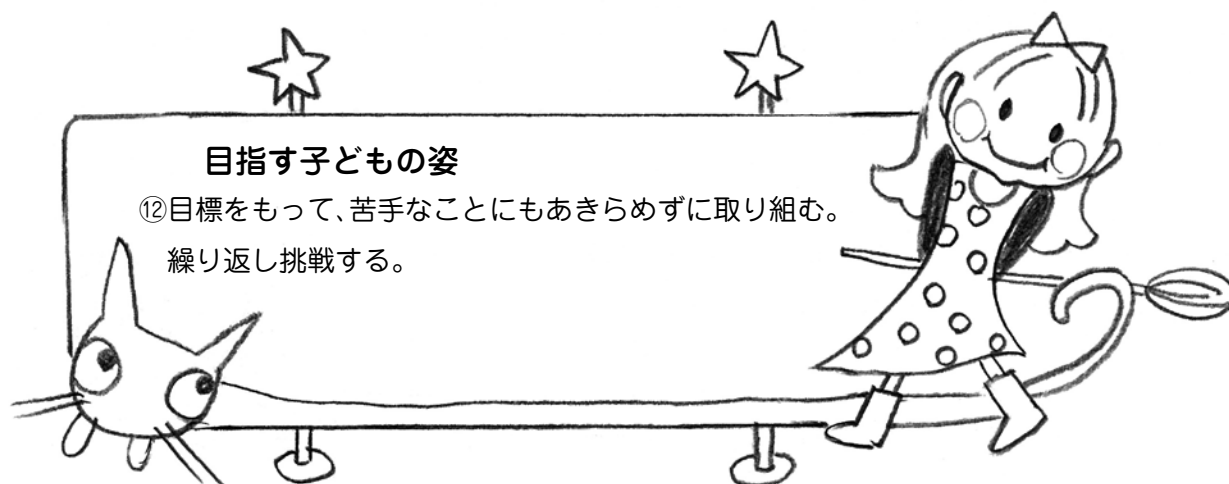
発言は挙手をして指名されてから。

体育の授業。体育係の指示で「前へならえ！」

テレビ画面に教科書を映す等、どの子にもわかりやすくなるよう工夫をしています。



3 チャレンジ力 (2) 気力・忍耐力



園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
⑫努力		→ 〈例〉目標をもって発表会に取り組む				
	→ 〈例〉目標をもって体育遊びに取り組む					
				→ 〈例〉20分活動をする		

学校生活に向けた園での配慮・工夫

目標をもって、苦手なことにもあきらめずに取り組む・繰り返し挑戦するために・・・

- いろいろな活動に興味や関心をもち、繰り返し工夫しながら取り組んでいく中で、楽しんで行っていけるよう意欲を育てていく。
- 行事等に取り組む時には、仲間と一緒に活動する中で楽しさと充実感を味わい、みんなと一緒にやり遂げるという経験ができるようにしていく。
- 発表会等では、保護者に見てもらおうことでやる気をもって取り組んでいけるよう進めていく。
- 様々な遊びを十分に楽しめるような環境づくりを心がけ、その中から子ども達が興味をもって「やってみたい」と思う気持ちを高め、楽しく活動に入っていけるようにする。
- 活動や目標は一人一人に合わせて設定し、その子なりに頑張って挑戦する姿を認めていく。また、やり遂げたときの喜びに共感していく。
- 困難な状況の時にもすぐには手を貸さずに、様子を見て一人一人の子どもに合わせた働きかけをし、意欲と自信を育てていく。
- 子どもがやりたくないと思う活動には、参加の仕方を工夫しながら少しずつ取り組んでいけるように支援をしていく。

スムーズにつなぐ!

☆学校では、「1学期のめあて」「1日のめあて」「〇〇係のめあて」等、学級や係、班、個人の目標を設定してその達成に向けて努力することが増えます。子ども達が、失敗を恐れたりあきらめたりせずに取り組むには、園・学校ともに周囲の大人が、子どもにできるようになったことに気付かせたり、結果ではなく過程に価値を見出したりすることが大切です。

学校での活動例

4月	5月	6月
	→	
	〈例〉運動会についてめあてをもって取り組む	
→	→	
〈例〉ひらがな練習、工作など最後まで丁寧に取り組む		
	→	→
	〈例〉生活科「はなやさいとなかよし」で植物の世話を継続的に取り組む	
		→
		〈例〉道徳「うかんだうかんだ」

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

目標をもって、苦手なことにもあきらめずに取り組む・繰り返し挑戦するために・・・

- 一人一人の実態に合わせた丁寧な指導を心がける。その際に、引き継ぎ資料等を活用して、得意なことや苦手なことを把握し、指導に生かすようにする。
- めあては難しすぎるものではなく、少し努力すれば達成できるものを設定できるよう支援する。また、日常生活や毎日の学習の中で、簡単なものを確実にに行わせるようにする。
- 学習や生活の中で、試行錯誤や繰り返す活動を意図的に計画して取り組ませる。
- 教師は児童の活動の様子をよく見て、適切な励ましや賞賛、助言等を心がける。
- 課題等をやり遂げたときの達成感や喜び、充実感を味わわせるとともに、児童ががんばることができた自分に気付くようにし、自信や意欲につなげる。
- 児童が失敗をした時には、叱るのではなく、やろうとしたことを認め、失敗が悪いことや恥ずかしいことだと思わせないようにする。その上で、うまくいかなかった原因を考えさせ、次の意欲につながるようにする。
- 児童にとって苦手なことに取り組ませる時には、なぜ取り組まなければならないのか、その活動の意義に気付かせたり、楽しんで取り組む工夫を講じたりして、児童にとって「つらい」「苦しい」というマイナスイメージや負担感のみが強調されないように配慮する。
- 「座って待つ」ことができるよう、指導・支援する。

幼稚園・保育園の生活 園児の姿 【気力・忍耐力】

- 運動会・発表会等の様々な行事に向けて、目標をもって取り組んでいく。
- いろいろな活動に興味をもって参加し、繰り返し挑戦したり工夫したりしながら取り組んでいくようになる。
- あきらめずに取り組み、その子なりに挑戦し、頑張る姿を教職員が認めていくことで、意欲や自信が育っていく。

あきらめずに挑戦!



短縄跳びの練習



鉄棒



跳び箱



自然の中にはやってみたい
ことがいっぱい!!



リレー



散歩では、長い距離もあきらめずに歩いていきます。



鬼ごっこ

継続して取り組んでいく
ことが大切です。

20分集中して取り組む活動



ヨガ



椅子に座って集中。



小学校の生活 児童の姿 【気力・忍耐力】

- 各教科の学習では、ひらがなや計算の練習、体育の鉄棒遊びや図工の工作等々、こつこつと努力して技能を身に付けていくものが多い。
- 学校生活では、係や当番、植物の世話等、分担したり毎日継続して取り組んだりすることが多く、その中で責任感や忍耐力を身に付けていく。
- 学年や学期の始まりには、めあてを決めて新たなスタートを切る。折に触れてそのめあてを意識し、学期の終わり等には振り返りをする。

ひらがなの練習



ひらがな、
じょうずにかこう!

逆上がり



さかあがりができる
ようにがんばるぞ~!

工作



かんせい
させるぞ!

鍵盤ハーモニカ



じょうずにひけるよう
にれんしゅうしよう!

運動会練習

5月下旬に行われる運動会に向け練習では、まさに気力や忍耐力が鍛えられます。

重たい椅子を持って教室から校庭まで移動



ダンスの練習

開会式の練習



飼育係



きれいにするぞ!

担任は子ども達のがんばりを認め、励ましていきます。

学期のめあて



広い校庭で
ダンスの位置の確認



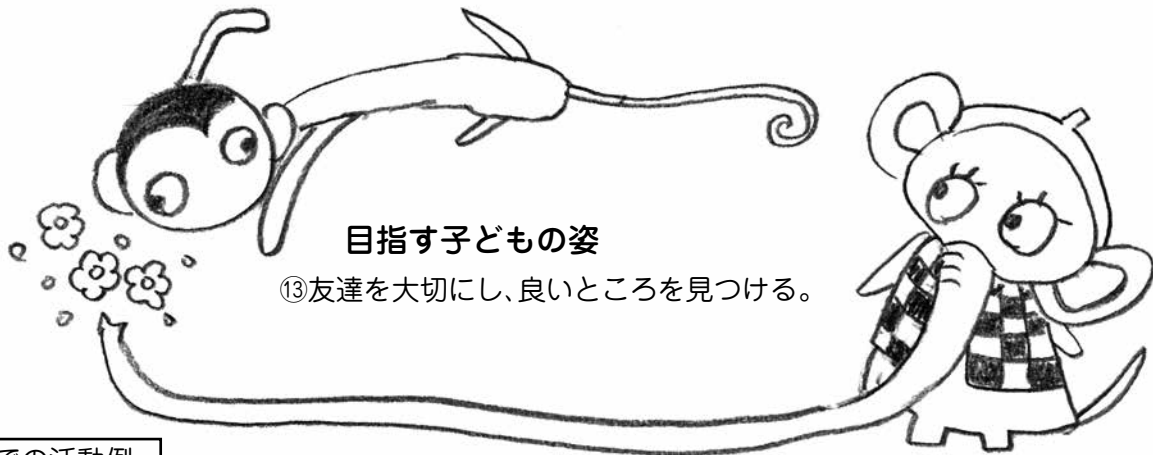
(小学校学習指導要領解説 生活科編 第5章 第4節「学習指導の進め方」より)

風で動かす自動車を作って遊ぶ児童は、土台となる紙箱に、厚紙を使った風受けや、竹ひごの両端にペットボトルのふたをはめた車輪をつけ、何度も何度も作り直す中で、風受けの大きさや形、車軸の向き、風の送り方、車軸を回転させるストローの付け方(略)などによって、走り具合が違うことに気付き、遠くまで走る風自動車は、これだ、と納得する。このように、試行錯誤を繰り返し、条件を変えて試してみる過程で、風で動く自動車の作り方への気付きが質的に高まっていく。

(中略)

初めて行う活動や体験で、予測してその後を見通すのが困難なことも、試行錯誤や繰り返す活動を行うことによって、気付きの質が高まり、次第に因果関係等をつかみ予測できるようになる。その際、試行錯誤の過程を児童が自ら振り返り、自覚できるようにする。(略) このように教師は、条件を変えて試したり、再試行したり、繰り返したり、確かめたりすることができる学習活動を用意するとともに、学習環境の構成などに心掛けることで、児童が活動や体験で得た情報が見通しに役立つという自覚ができるようにしていく必要がある。

4 豊かな心 (1) 思いやり



園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
⑬友情					→ 〈例〉絵本「しんせつなともだち」	
		→ 〈例〉朝の会や帰りの会で当番の良いところを伝え合う				

学校生活に向けた園での配慮・工夫

友達を大切にし、良いところを見つけるために・・・

- 子ども達が安心感をもって友達とのかかわり合いを広げていけるよう、教職員との信頼関係を一人一人丁寧に築いていく。
- 下の年齢の子とかかわる活動を増やし、思いやりの気持ちが生まれるようにしていく。
- 友達同士のかかわりを見守るような時間（自由遊び）がとれるように配慮し、子ども同士のかかわりを大切にする。
- 安心感をもってやりたいことに取り組みながら楽しい園生活を経験し、いろいろな友達とのかかわり合いが広がっていくようにしていく。
- 子ども同士一緒に遊んだり生活したりする中で、一緒に過ごす楽しさを味わうことができるよう、教職員は一人一人の友達への興味や関心、仲間関係等を把握し、見守ったり、援助したり、仲立ちをしたりしていく。
- いろいろな友達とかかわり合う中で、友達がそれぞれの違った思いや感情があることに気付き、ぶつかり合いながらも相手を理解するという体験を重ねながら、かかわり合いを深め共感や思いやりの気持ちをもてるようにしていく。
- 教職員は、一人一人の子どもの良さを見つけたり、素直に「ごめんね」と口にしたり、他の教職員と仲よくコミュニケーションをとったりする姿を見せ、子ども達の手本となっていく。

スムーズにつなぐ!

☆教職員が仲立ちをして友達とかかわっていた園での生活を経て、小学校では同年代の友達との関係づくりに重点が置かれます。学習や生活の中で、友達と協力する機会も格段に増えます。同年代の友達と触れ合い、良好な関係を築くことは、成長する上で、また人生の喜びという観点からも大切に欠かせないものです。幼保小とも、まずは「友達が好き」「友達といるのが楽しい」という心情を育めるよう、意図的に機会を設け働きかけていくことが大切です。その心情がコミュニケーション力育成のための「人間関係力」の基盤ともなります。

学校での活動例

4月	5月	6月
	<p>→</p> <p>〈例〉「友達をふやそう」ゲーム</p>	<p>→</p> <p>〈例〉道徳 「はしのうえのおおかみ」</p> <p>→</p> <p>〈例〉名刺交換ゲーム</p> <p>→</p> <p>〈例〉席替えの時に今まで隣の席だった友達に「ありがとうカード」を渡す</p>

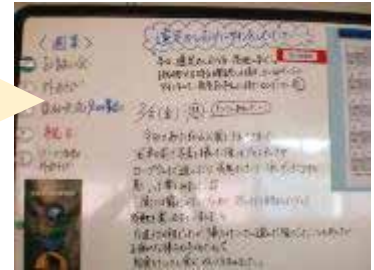
園での経験を生かした学校での配慮・工夫

友達を大切にし、良いところを見つけるために・・・

- 園や近所の友達との関係を大切にしながら、新しい人間関係を意識してつくるようにする。
- さまざまな友達との直接的なかかわり合いの機会を多くし、思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくるようにする。
- 学級の生活を共にしながら、仲よく遊んだり困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ね、子ども達が自然に友達のよさを感じるようにする。特に身近にいる友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さを実感できるようにする。
- 困っている子がいたら助け合う姿勢を大切にする。(筆箱を床に落とし、中身が散らばってしまった子がいたら…一緒に拾ってあげる。隣の席の子が教科書を忘れてしまったら…見せてあげる。)
- 相手の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動するようにさせる。
- 道徳の価値項目である「友達と仲よくし、助け合う」との関連が非常に強い項目なので、日常生活の課題に合った教材を道徳の時間に取り扱う等して、道徳的実践力を養うようにする。
- 特に「集団活動を通して友達との関わり方を知る」(コミュニケーション力)や「命や自然を大切にする」(豊かな心)の項目での経験を通して感じた思いを、友達と共感し合うことを大切にする。

- 職員との信頼関係をもとに、友達とのかかわり合いが広がっていく。
- 園の中で身近な職員や友達と親しみ、かかわり合いを深め、楽しく、意欲的に活動していくことで自分も友達も大切にしようとする思いやりの気持ちが育っていく。

掲示板



クラスの掲示版①
その日の様子を保護者に
知らせています。

縦割り活動



年下の子の手を引いて散歩。
小さい子とのかかわり合いの
中から「思いやり」の気持ち
が生まれていきます。

クラスの掲示版②
年長専用の掲示版でクラスの行事、
活動、異年齢児とのかかわり、幼
保小の取り組み、『ステップ』等を
掲示しています。



異年齢児と力を合わせて
綱引き



縦割りのゲーム



集団遊び



じゃんけん列車



いろいろな友達と遊び、
かかわり合う中で、友達の
良いところに気付いていき
ます。



小学校の生活 児童の姿 【思いやり】

- 学習では、グループ学習等、課題解決に向けて友達と協力する学習活動を取り入れることが増えている。また、休み時間は、多くの友達と接するように学級レク等で学級全体で遊ぶ時間を設定している学級が多い。
- 各担任は、主に学級活動の時間を工夫して、友達の良いところを見つけたり、それを伝え合ったりすることで、温かい人間関係づくりを進めている。

「ありがとうカード」



席替えをする前に、同じ班だった友達にカードを贈り合う学級もあります。

学級全員からカードでお祝いされると嬉しいですね。

「たんじょうびカード」

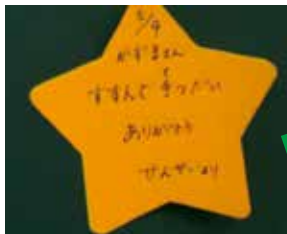


「おたよりカード」
(欠席した友達への手紙)



幼稚園児や保育園児との交流

年下の友達との関わりで、お兄さんお姉さんとしての思いやりの気持ちが芽生えます。



「かがや木」



友達の優しいところや良いところをカードに書いて掲示

「思いやりの木」



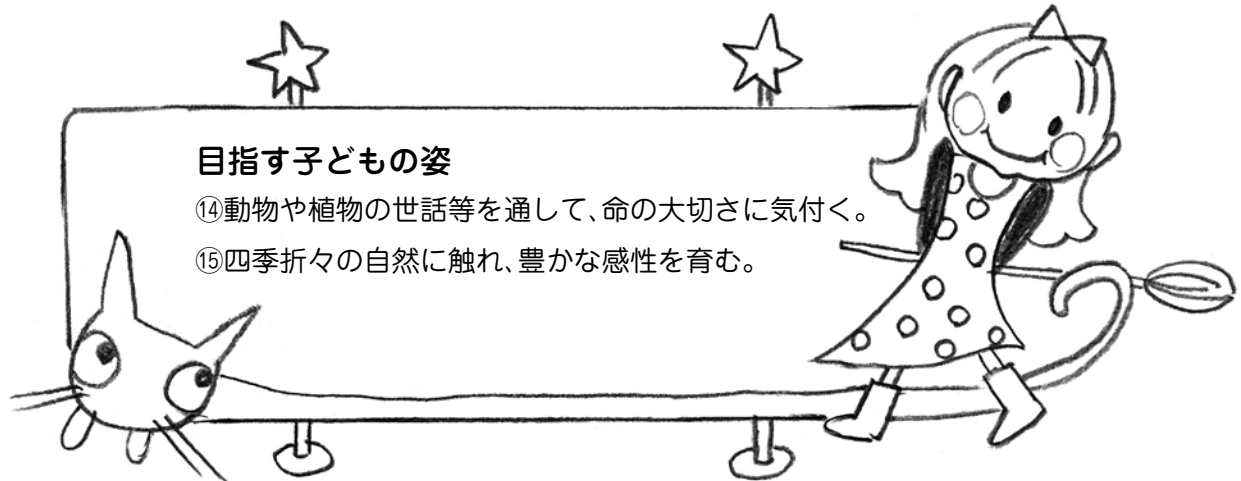
帰りの会で、今日がんばっていた子などを発表したり、予め順番を決めて一人にスポットを当て、みんなで良いところを見つけ合ったりする方法もあります。

教師は、子ども達の模範となるよう、思いやりのある言動を心がけましょう。子ども達はその姿を見て「思いやり」の具体的な行動の仕方を学んでいきます。また、子ども達の中で、友達のために働いた子や譲り合いをした子を見つけたら、帰りの会などで取り上げ、大げさなぐらいほめてあげましょう。「ほめて価値を伝える」ことが大切です。



- 道徳教育の要として、小学校では平成30年度より「特別の教科 道徳」(道徳科)が教科化された。1年生は年間で34時間、週に1時間として時数が配当されている。

4 豊かな心 (2) 命や自然を大切にする



目指す子どもの姿

- ⑭動物や植物の世話等を通して、命の大切さに気付く。
- ⑮四季折々の自然に触れ、豊かな感性を育む。

園での活動例

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
⑭命の大切さ	→			→	→	→
		〈例〉ザリガニやカブトムシの飼育をする		〈例〉絵本「こいぬがうまれるよ」	〈例〉チューリップの栽培をする	
⑮自然	→		→	→	→	
	〈例〉落ち葉や木の実を拾う		〈例〉絵本「しずくのぼうけん」		〈例〉氷作りをする	

学校生活に向けた園での配慮・工夫

動物や植物の世話等を通して、命の大切さに気付くために・・・

- 園内で小動物を飼ったり、遠足や散歩の機会を利用したりして、実際に小動物に餌を与えたり、一緒に遊んだり、植物を育てたりするという体験や、教職員が世話をする姿を見ること等を通して、成長や変化に気付き、感動したり大切に育てるといった気持ちが芽生えたりしていくようにする。
- 生き物の飼育を通して、生命の誕生や終わりの場面に出会うことで、生命について考えたり、喜びや悲しみ等の感情を体験したりできるようにする。
- 動植物への興味や関心を深めていく中で、かわり方を知らせながら、どうしたらその動物が過ごしやすいか、植物がよく育つかを考え、命を大切にしようとする気持ちが芽生えるようにしていく。
- 絵本や図鑑を通し、動植物の育ちの様子等に触れ、生命への興味や優しさ、思いやりの気持ちを育てていく。

四季折々の自然に触れ、豊かな感性を育むために・・・

- 周りの自然に目が向くよう働きかけ、自然の大きさ、美しさを感じられるようにする。また、木の葉の色や風の冷たさ、日差しの強さ等に気付き、自然の変化を感じられるようにしていく。
- 季節の自然に触れる機会をもてるよう、園外保育の計画を立てていく。
- 子どもの発見を大切にしながら、教職員や子ども同士で共感していく。
- 季節感のある行事等を取り入れ、四季折々の地域の伝統的な行事に触れる機会をもつ。
- 園内の自然環境を整備したり、秋から春にかけての草花や木の実等、自然物を遊びに取り入れたりしながら、季節が感じられるようにしていく。

スムーズにつなぐ!

☆小学校では、生活科の学習として、動植物の飼育栽培をします。現代の社会においては、子どもの自然体験の場や機会が著しく不足しています。そのため、幼少期においてできる限り**豊富な自然体験**をさせることが大変重要になります。幼保小とも、自然や動植物等に直接接触れる経験を通して、愛着をもち、命や自然を大切にしようとする心情を養うようにすることが大切です。

☆また、身近な自然の中で遊んだりする中で、自然の面白さや不思議さ、美しさ、心地よさ等を感じることは、諸感覚を磨いたり豊かな感性を育んだりすることにもつながります。そのため、幼保小ともに、**豊富な自然体験**の機会を可能な限り数多く設けることが望まれます。

学校での活動例

4月	5月	6月
	<p>→</p> <p>〈例〉道徳「ぼくのあさがお」</p>	
<p>→</p> <p>〈例〉生活科</p>	<p>→</p> <p>「なにをそだてようかな」「はやくめをだしてね」「おおきなあれ」</p>	<p>→</p>
<p>→</p> <p>〈例〉生活科「ともだちとなかよし」</p>	<p>→</p> <p>〈例〉道徳「ときどきどっきんぐ」</p>	
		<p>→</p> <p>〈例〉生活科「みんなのこうえんだね」</p>

園での経験を生かした学校での配慮・工夫

動物や植物の世話等を通して、命の大切さに気付くために・・・

- 就学前に家庭や園で植物を育てたり、動物を飼ったりした経験を思い出させ、その時に感じたことやうまくいかなかったこと等を学習に生かすようにする。
- 動物の飼育や植物の栽培に自らかかわろうとする場面を意図的に設ける。また、継続的な活動に取り組みさせる。
- 動物や植物のもつ不思議さ、生命の力、共に生きていることの喜び等を感じさせるように配慮し、自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちが強く育まれるようにする。
- 自分の命の大切さについては、生活の中で生きている実感をもつような配慮をする。夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる。おいしく食事ができる。学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる。このような一見当たり前なのに喜びを見出すことによって、命の大切さを自覚できるようにする。
- ⑭⑮ともに生活科と道徳の内容に深くかかわる内容となる。生活科の学習に関連する道徳の教材を取り上げるなどして、体験と価値（命の大切さ）が結びつくように配慮する。

四季折々の自然に触れ、豊かな感性を育むために・・・

- 実際に野外に出かけ、諸感覚（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚等）を使って繰り返し自然と触れ合うことを大切に、自分なりの思いや願いをもって進んで自然とかわるようにならせる。ただし、各校の実態等を踏まえ、可能な範囲で自然教材を扱うようにする。
- 林や生き物、草花のほかにも、石や土、水、雨、風、光等も身近な自然としての対象にして、春や夏の特徴をとらえるようにする。

幼稚園・保育園の生活 園児の姿 【命や自然を大切にする】

- 植物を育てたり、動物と触れ合ったりする中で、命に触れ、大切にしようとする気持ちが芽生えていく。
- 自然に触れて遊んだり、季節の行事を取り入れたりしながら、季節の変化を感じる。

実際に育ててみることで、探究心も芽生えていきます。

植物・野菜の栽培、小動物の飼育



植物を育てることで、花が咲いたらおしまいではなく、次の命につながる種ができるということを体験から知る機会にもなります。



小動物の飼育



育てたスイカでスイカ割り

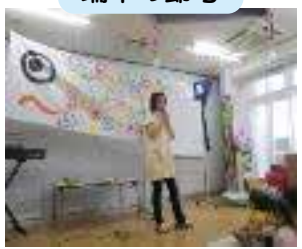
七夕や十五夜等 季節感のある伝統的な行事、季節ならではの遊びを行っています。



餅つき



端午の節句



七夕



十五夜



節分



○植物の栽培

アサガオ

種まき



水やり



種取り



昇降口の近くに植木鉢を並べたり、靴箱にじょうろを入れておいたりすると、忘れずに水やりができます。

観察カード



教師は意図的に問いかけ、児童の気付きにつなげます。



○動物との触れ合い

羊



二小と湖北小で飼われている羊。4月はじめにある毛刈り体験は、実際に羊の毛に触れるとともに、貴重な交流の機会にもなっています。

○動物の世話

ザリガニ



うさぎ



○季節を感じる活動

公園探検



七夕祭り



水泳学習



凧揚げ



第3章

効果的な交流活動のヒント



1 子ども同士の交流活動

主な交流内容

(園児と小学生)

- 散歩 ○学校見学 ○交通安全教室(参加、見学) ○運動会練習見学 ○運動会(就学前児レース)
- 四小月例リレー・南小南っ子オリンピックの見学 ○小学校の校庭で園の運動会。練習も。
- 夏休み作品展の見学 ○園の行事(祭りや運動会、バザー、音楽会等に卒園児を招待)
- 生活科や国語の授業 ○図書室体験・読み聞かせ ○羊の毛刈り ○稲刈り見学
- 音楽会に向けた練習の見学 ○書初め展の見学 ○縄跳び大会の見学 ○持久走大会の見学
- 近所の公園で待ち合わせて自由遊び(天王台地区・布佐地区の幼・保・小合同)
- 作品交流(小学生の絵画等の作品を園に掲示する)

(園児同士)

- 園庭での交流(ドッジボール・リレー・体操・ダンス・遊具・自由遊び)
- 英語教室 ○体操教室(特徴のある交流)
- 2園合同バス遠足 ○合同みかん狩り ○3~4園合同交流会
- 近所の公園での交流(高野山桃山公園・手賀沼公園・五本松運動広場・宮ノ森公園等)

交流活動は、園の子ども達が入学に対する期待に胸をふくらませ、小学校の子ども達は自分の成長に喜びを感じ、自信をつける良い機会になっています。

交流の機会を生かすためには、双方がしっかりと交流の目的をもち、それを理解し合うことが大切です。

交流の計画を立てよう



- ・年度当初(第1回地区別会議)に大まかな日程(可能なら具体的な日程や予備日)で計画を立てておきましょう。
- ・交流した時に次の交流について少し話しておくとしムーズです。
- ・交流の回数には限度があるので、可能ならば一度に複数の園と交流できるようにするのもよいでしょう。
- ・電話の他にメールでのやりとりを加えると連絡が取りやすくなります。
- ・学校はメールで地区内の園に行事の開催を知らせ、興味のある園が学校に連絡を取る方法もあります。
- ・ホームページや学年便りで行事や学習内容の確認ができます。
- ・学習参観・給食参観・プール参観等は園から声をかける方が実現しやすいです。
- ・交流の計画が3学期だけだと、感染症の流行や荒天で中止になってしまうこともあるので、できれば1学期から交流を予定した方が確実です。
- ・交流のための行事をつくるのではなく、普段の授業や活動を利用した、無理のない交流を心がけましょう。

楽しく交流しよう



充実した交流のために・・・

- ・交流の目的をはっきりさせましょう。
- ・交流内容は、園からの要望も伝えましょう。
- ・五感を通じた見学を心がけましょう。
(チャイム・先生の話・実際に机と椅子に座る体験・中身の入ったランドセルを背負って歩く 等)
- ・小学校の業間休みに小学生と一緒に遊ぶのも気軽に自然な良い交流です。
- ・複数回の交流をもつ方が効果的です (同じ場所 or 同じ相手)。園児は不安が減ります。児童は同じ内容の交流会をもつと、改良点を見出すことで思考力の育成につながります。
- ・小学生が近くの園に歌声集会で発表した歌等を披露しに行くのも喜ばれます。
- ・園児は小学校や小学生の様子をよく見ています。見るだけでもかなりの刺激や成長になっています。
- ・「ステップ」の報告を見て、他地区の実践も参考にしましょう。
- ・交流活動は、「作品に触らない」「静かに見学する」等のマナーや、「教えてくれる人の話を聞く」「順番を守る」等の約束を学ぶ場、そして、感謝の気持ちを伝える体験にもなります。

園に帰った後、学校ごっこや手作りおもちゃなどを自分達の遊びに取り入れる園児も！

子ども同士の交流を深めるために・・・

いろいろな工夫があるよ

- ・自由遊びの時間を設ける。
- ・プログラムを決めず、会って遊ぶだけの内容にする。
- ・同じ遊びをみんなで楽しんだ後、自由遊びをする。
- ・ルールのある遊びを楽しんでから、自由遊びをする。
- ・混合チームでゲームをする。
- ・混ざり合ってお弁当を食べる。
- ・それぞれの園で取り組んでいる体操やダンスを持ち寄って踊る。
- ・同じ相手と複数回の交流をもつ。
- ・同じ小学校に行く子同士の関わりをもつ。
- ・合同遠足でバスに乗り合わせ、歌やクイズ、会話を楽しむ。
- ・園児のペースを大切にす。屋台形式の遊び体験では、無理に全部の屋台を回らず、一つのコーナーでじっくり取り組む子がいてもよしとする。

ドッジボールやリレーを通じた交流は「うまくなりたい」という向上心にもつながります。

園児が小学生に憧れの気持ちをもつために・・・

このような交流があります

- ・長縄跳びや持久走大会の見学
- ・高学年の学習活動の見学 (リレー・綱引き・合唱等)
- ・夏休み作品展や書初め展の見学

1年生に限らず、5年生をはじめとする他学年との交流もよいものです。特に高学年の姿は、「小学生ってすごいなあ！」という憧れにつながります。リレーなどで走る姿や長縄練習、合唱などの見学の機会をぜひつくってみてください。また最近では国語の学習で、音読劇や絵本づくりをする機会もよくあります。その発表の相手として園児を招待するのはいかがでしょうか？ 幼保小連携「コーディネーター」なので、ぜひいろいろな交流をアレンジしてみてください。



園児が小学校生活の見通しをもったり、意欲を高めたりするために・・・

- ・通学路を通して小学校へ行ってみましょう。
- ・小学校へ行く回数を重ねましょう。
- ・雨の日の交流も中止にせず、あえて行ってみると、傘や長靴の扱い方、雨の道の歩き方の練習になります。
- ・学校見学の際に、校内で弁当を食べるのも効果的です。
- ・園だより・学校だより等の交換の機会を活用しましょう。

代表園児に届けさせると、小学校でのマナーや挨拶などを経験する機会になります。

- ・卒園児の成長した姿に注目させましょう。
- ・スライドでの学校紹介も効果的です。
- ・小学校教諭による模擬授業（小学校で・園に出張して）はとても効果的！

準備しすぎるのも子どもにとってプレッシャーになったり、楽しみの半減につながってしまったりします。子どもの個性も考え、活動内容はその都度考慮しましょう。



学校の児童の教科の学習効果を高めるために・・・

- ・教科の学習と関連させて交流活動を行いましょ。



「きいたことを正しくつたえよう（学校案内）」「のりものカード紹介」
「かるた」「おおきなかぶ（劇）」音読「絵本の読み聞かせ（一人1冊）」
「ころぼかぼか手がみをかこう（交流後の感想）」 ☆言語活動を工夫して

「かたちあそび」で園児と協力して活動



「七夕かざり」「あきとあそぼう」「日本の遊び（昔遊び）の会」
「なかよしかい」「公園たんけん」「学校たんけん」
「学校しょうかい」（紙芝居で1年間の行事を紹介）

一緒に歌い振り付けを一緒に考えて踊る

音楽



歌声交歓会 英語活動「なかよし盆踊り大会」
夏休み作品展の案内 水泳学習の見学

- ・交流活動の目標（児童の）を明確にしましょう。
- ・目的意識や相手意識をもたせ、1年生なりに考える場面を増やしましょう。
- ・形態などを工夫しましょう。
- ・年間の交流にストーリーをもたせると効果的です。

学年全体ではなく、学級単位で交流すると、フットワークが軽くなります。コーディネーターの学級での交流と、学年全体の交流を臨機応変に使い分けましょう。

- (例1) 1学期 自分の好きな場所を園児に紹介する。
3学期 同じペアに伝承遊びを教える。

- (例2) 1学期 生活科「みんなのこうえんだね」近所の公園での交流（主に自由遊び）
2学期 生活科「あきとあそぼう」別の公園での交流（どんぐり拾い）
3学期 生活科「ようこそ あたらしい1年生」小学校での交流（校庭で外遊び・教室でクイズ・学校巡り）



無理のない交流を・・・

- ・場所（近所の公園等）と時間だけ決めて集合し、自由に遊ぶ。
- ・学習参観をしてもらいながら、一部に参加できるようにする。
- ・行事などの特別な交流ではなく、一緒に遊んだり学校を見学したりするなどの自然な交流をする。
- ・落ち着きのない子が多い場合は、安全面も考え、難易度の高い交流は避けた方がよいでしょう。
- ・気軽に参観する。

負担を感じて交流が億劫になっては本末転倒です。

園側は、校内見学や授業見学程度なら、あらかじめ打ち合わせをしていなくても、気軽に声をかけて大丈夫です（教頭先生も窓口。当日職員室に声をかけて1年生の先生に校内電話をかけてもらうこともできる）。1年生の担任と直接話したい時は16時以降だと比較的つかまりやすいです。



園の先生が小学校の様子を知るために・・・

こんな機会やものを利用しては？

- ・給食試食会を利用した給食時の参観
- ・午睡時を利用した情報交換
- ・就学時健診での配布資料や学年便りを園での指導や懇談会の参考に



子どもの様子をよく見よう



小学校の先生が園児の特徴をつかむために・・・

- ・その小学校に行く園児を一つのグループにまとめたり、帽子の色を変えたりするなどして、一目で分かるような工夫をしましょう。
- ・大人数での活動が苦手な園児等の姿を見て、発達段階の理解や引き継ぎにつなげましょう。

交流を定着させよう



職員間の引き継ぎが大切です！

- ・今年したことを年間指導計画に位置付けたり、資料を残したりして次年度の担任に引き継ぎましょう。
- ・我孫子市幼保小連携協議会の目指すところや課題についてしっかりと自園・自校の職員に伝え、園や学校全体の共通理解を図りましょう。

就学を見据えて

年長終盤は以下のような活動や工夫も取り入れてみましょう

- ・椅子に座る ・姿勢の意識 ・話し手を見て聞く ・朝の会・帰りの会 ・時間で動く
- ・チャイム ・上履きを履く習慣 ・下駄箱の使い方 ・和式トイレを使う ・ぞうきんがけ
- ・着替え ・服をテーブルの上に置く習慣 ・ハンカチとティッシュをポケットに入れる
- ・配膳の流れ ・食事時間を20分間にする ・ランチョンマット ・歯磨きセット
- ・「保育士の至れり尽くせり」から「子どもが自分で」（配膳の量）
- ・給食のメニュー（ししゃも・にぼし等）を取り入れる
- ・水のり ・色鉛筆 ・個人持ちの筆箱 ・セロテープ
- ・廊下の右側通行 ・午睡の時間を減らす、なくす ・雨の日の傘の処理（まとめる）
- ・通学路を通して交流活動に行く（交通ルール・「こども110番の家」）



2 子どもと大人を交えた交流活動

主な交流内容

- 模擬授業（園児が学校で）
- 小学校教諭が園で園児に学校について話す
- 小学生の町探検（2年生）
- 小学校の講話会の講師（園職員）
- 授業参観（園職員）
- 小学校の行事を参観（園職員）等




模擬授業

- ・小学校の教員による模擬授業（小学校についての説明）を実施すると、園児の入学に向けての意識が高まります。
- ・模擬授業の内容は職員の参考にもなり、その後の保育に取り入れることができます。





- ・模擬授業の内容は以下の内容から3つぐらいをするのが適当です。
 - ・鉛筆の持ち方 ・線なぞり ・書くときの姿勢
 - ・自分の名前を大きく書く（手本有り） ・数を数えて数字を書く（手本有り）
 - ・先生に呼ばれたら返事をする ・ランドセルをしまう
- ・小学校の先生の言葉がけが意欲を高めるので、たくさんほめてあげましょう。
 - ・花丸 ・「いいですね」



○模擬授業体験：事例1

時間	活動内容	配慮・留意事項
9:30	<p>1 国語「ひらがなを書いてみよう」 子どもたちと一緒に、一画の字を指で書く。 * 指名された子は前に出て書く。</p> 	<p>○視覚に訴える授業は、通して45分間は難しいが15分間を3コマに区切ることで、集中して取り組める。</p>
9:45	<p>2 算数 「手あそびをしよう」 ♪ 1の2の3～の4の2の5～、3、1、4の2の4の2の5 子どもたちと一緒に、手遊びをする。 * 指名された子は前にでて、手あそびをする。 【数の勉強】</p> 	<p>○切り替えの声掛けは、サンドイッチの法則（「指示→行動→ほめ言葉」）で。</p> <p>○できないことも認めていこう。「失敗はダイヤモンド」。肯定的なとらえ方をする。</p>
10:00	<p>3 生活 「小学校ってこんなところ」 学校紹介のパワーポイントを見る。 * ランドセルを背負わせてもらい、重さを実感する。</p> 	<p>○入学までに自分が困っていることを伝えられるようになっていくことが大切。</p> <div data-bbox="863 1682 1182 1865" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> ランドセル 重いなー </div>
	終了	

○模擬授業体験：事例2

時 間	活 動 内 容	配 慮 ・ 留 意 事 項
9 : 30	1 2クラスに分かれて教室に入る 順番に着席する 	○園児を順番に座らせる。
9 : 35	2 挨拶をする 3 職員の紹介	○小学校教員を紹介し、きちんと挨拶をさせる。(保育園)
9 : 40	4 学習の体験をする ○椅子の座り方 ○始まりの挨拶 ○返事の仕方・手の上げ方 ・大きな声で返事をしよう  ○言葉遊び ・しりとりをしよう ○ブロック操作(20個) ・個数を数えてみよう ・ブロックを並べてみよう   ○歌「さんぽ」	学校生活体験(小学校) ○呼名は一人ずつおこなう(小学校) ○欠席者や名前のわかる名簿を2枚用意し、事前に小学校の教員に渡す。(保育園) ○しりとりの時には、声の小さい園児や言葉が思いつかない園児を支援する。(保育園) ○数を数えられない園児を支援する。(保育園)
10 : 10	5 挨拶をする ○終わりの挨拶	○きちんと挨拶をさせる。(保育園)

園の職員が学校へ

- ・帰りの会…卒園児の様子が見られ、小学校の生活を知る良い機会となります。
- ・公開授業研究会…小学校の取り組みや学習の様子について授業参観を通して知ることができます。
- ・給食試食会…1年生の配膳風景を見学でき、様子がよく分かります。撮影すると、園に帰った後、園児に配膳の様子や給食の写真を見せることができます。

学校の職員が園へ

- ・小学校教員の2年目研修や3年目研修、中堅教諭等資質向上研修などの機会をとらえ、園で研修すると、幼い子への接し方や細やかな保育の工夫を学べます。1年生の担任でなくても保育の様子を知ることによって小学校での指導に役立てることができます。

その他

- ・園だより、学校だより等の交換の機会…代表園児に園だよりを届けさせると、小学校でのマナーや挨拶などを経験するよい機会となります。また、学校だよりで卒園児の活躍もわかります。



3 大人同士（教職員）の交流活動

主な交流内容

- 地区別会議 ○推進委員会
- 研修会（保育参観・学校参観・講演会）○給食試食会 等

「連携」とはお互いを知ること。
顔を合わせて知り合いになると、気軽に会話ができるようになり、連携の中身も深く濃くなります。まずは職員の交流を大切にしましょう。

研修会

台同の研修を行うことで、子どもやお互いの教育についての理解を深めることができます。



園参観

（園を参観した学校の教員の感想）
「園の先生方の指導はきめ細やか！」
「園児もできることがたくさんある。今まで1年生に手を貸し過ぎていたな」

（園を参観した園の教職員の感想）
「園に持ち帰ることで、より見通しをもった保育の計画に繋がった」
「自園でも活用できそう！」



学校参観

（学校を参観した園の教職員の感想）
「実際に見ることで、保育園生活と比べて変化がある部分を知ることができた」



協議会

- ・一つのテーマでそれぞれの立場での意見交換により、接続期の教育や保育についての考えが深まり、就学までにつけたい力が、共通認識できます。
- ・就学に向けての準備等が詳しく分かり、保育に活かすことができ、滑らかな就学に向けて保育を進めることができます。
- ・参観内容を視点に、どんなことに指導の重点を置いているのかが聞け、参考になります。

様々な機会の利用

- ・小学校教員の「異校種研修」
- ・地区の合同料理講習会や市内給食懇談会…栄養士が参加すると、食育に関する研修が深まります。また、小学校の給食のメニューを自園の献立に取り入れる工夫も図れます。
- ・年齢別研修…1年の研究テーマを決めることで、取り組みの参考になります。
- ・園同士の合同交流会…保育士の交流にもなり、広く情報共有ができます。
- ・就学時健診での配布資料…園での懇談会の参考にすることができます。
- ・交流活動時に、子ども達の交流を見守りながらなど、時間を見つけて小学校のコーディネーターと入学予定の子どもの話をすることもできます。



園だよりや学校だよりの活用

- ・直接交換すると、感染症の流行などの情報交換や交流活動の相談ができます。

育ちと学びをつなぐ会

- ・園での教育や保育の様子、子ども達の育ちについて、園や学校の教職員が直接顔を合わせて情報交換をすることができます。この内容を参考に、小学校での教育や、指導支援を行うことにより、よりなめらかに接続することができます。

保護者への周知

- ・交流の様子を保護者にも伝えることで、保護者の不安を抑えることにもつながります。
- ・「ステップ」を掲示するなどして交流の様子を知らせることで、保護者も関心をもつようになります。
- ・保護者会の話題にしたり、配布資料にカリキュラムの内容を載せたりして、幼保小連携で目指していることを伝え、内容によっては家庭に協力してもらうことも必要です。
- ・交流の日に保護者参観を実施して子ども達の様子を見てもらうのもいいですね。
- ・園の保護者会に小学校職員を講師として招く方法もあります。



第4章

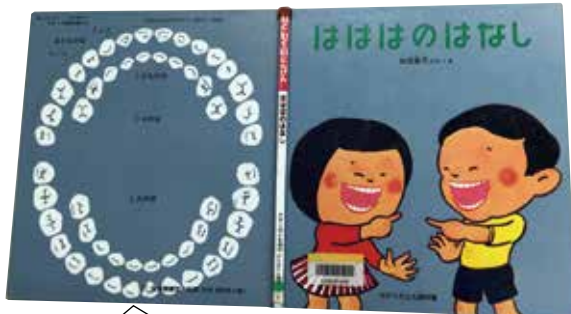
資料



絵本特集

カリキュラムに関連する絵本を紹介します

健康な体づくり



はははのはなし

ぶん／え 加古里子 福音館書店

歯や食べ物、健康について楽しく描かれています。

基本的生活習慣



はけたよはけたよ

ぶん／かんざわとしこ え／にしまきかよこ 偕成社

ひとりでパンツがはけないたっくんが思いついたいい方法とは・・・

伝え合う力



ことばのべんきょう

ぶん／え かこさとし 福音館書店

くまちゃんの生活を通してあいさつやことばのやりとりがわかります。

人間関係力



わたしとあそんで

ぶん／え マリー・ホールエッツ 福音館書店

「わたし」がみんなと一緒に遊ぶ楽しさを感じます。

学びの基礎



くんちゃんのはじめてのがっこう

さく／ドロシーマリノ ペンギン社

新しい環境から逃げ出してしまったくんちゃんでしたが、自分の居場所を見つけることができました。

気力・忍耐力



はじめてのおつかい

さく / 筒井頼子 え / 林明子 福音館書店

みいちゃんは、初めてお母さんにおつかいを頼まれて、牛乳を買いに出かけます。途中転んでお金を落としてしまいます。やっと見つけてお店の前に立ちました。でも、どうしても大きな声が出せなくて、なかなか買えません。さて、みいちゃんの初めてのおつかいは、どうなるのでしょうか・・・？

思いやり



しんせつなともだち

さく / 方軼羣 え / 村山知義 福音館書店

山には雪がたくさんつもっています。子うさぎは食べものを探しにでかけました。すると、かぶがふたつ落ちていたので、ひとつ食べて残りをろばの家を持って行ってあげました。ろばはるすだったので家においてきましたが・・・

命や自然を大切にする



こいぬがうまれるよ

ぶん / ジョアンナ・コール
しゃしん / ジェローム・ウエクスラー
福音館書店

こいぬが生まれる様子と、育っていく様子が写真で描かれています。



しずくのぼうけん

さく / マリア・テルリコフスカ
え / ポフダン・ブテンコ 福音館書店

村のおばさんのバケツから、びしゃんと水がひとしずく、とびだして長い旅に出ます。空にのぼって雨になり、岩のわれめに落ちて氷に……。しずくの旅はまだまだ続きます。

*参考 我孫子市民図書館
『わたしたちのえらんだ えほん 99+1』

「36の基本の動き」を意識して体力向上を

最近の子ども達の特徴としてまず挙げられるのは、姿勢の保持が難しいことです。その背景には、歩く機会が減少したり、屋外で体を使った遊びをする機会が減ったりする等の生活環境や遊びの変化があります。そのために、園や学校で意識的に、それらを補う運動を取り入れることが大切です。

人間の基本的な動きは36種類に分類できます（山梨大学山本和彦教授による）。幼少期にできるだけこれらの動きをたくさん経験し、バランスよく身に付けることが望ましいとされています。

☆平衡系☆ (からだのバランスをとる動き)				★操作系★ (人やものを操作する動き)			
①	たつ	⑩	あるく	⑱	もつ	⑳	わたす
②	おきる	⑪	はしる	⑲	ささえる	㉑	つむ
③	まわる	⑫	はねる	㉒	はこぶ	㉒	ほる
④	くむ	⑬	すべる	㉓	おす	㉓	ふる
⑤	わたる	⑭	とぶ	㉔	おさえる	㉔	なげる
⑥	ぶらさがる	⑮	のぼる	㉕	こぐ	㉕	うつ
⑦	さかだちする	⑯	はう	㉖	つかむ	㉖	ける
⑧	のる	⑰	くぐる	㉗	あてる	㉗	ひく
⑨	うく	⑱	およぐ	㉘	とる	㉘	たおす

これら36の動きを意識して保育や教育に取り入れ、子ども達の体力を高めていきましょう。一例として、以下のものを紹介します。ぜひ、参考にしてみてください。

体の動きを考慮した遊びを取り入れましょう

○ バランス歩行 ○

スポンジを切ってつなげたものを並べて、その上をバランスをとりながら落ちないように歩く。



☆わたる
 ☆のる
 ☆あるく

☆はう
 ☆くぐる

○ くもの巣くぐり ○

ゴムを張り巡らし、上からまたいだり下から這ってくぐったりする。ゴムに引っかからないようにするために慎重に体を動かすことから、動きを調整する能力が発揮される。



○ 的当て ○

子ども達に人気のキャラクターで的を作ってボールを当てる。水を入れて重さを調整したペットボトルを的にしても面白い。なお、的に当てるのではなく、ロープ等で基準を作り、その基準を超えるように投げることも投力の向上に有効である。



☆つかむ
☆あてる
☆なげる

体を動かす機会を確保しましょう

登園（校）や移動時間の活用して・・・

子ども達の動線を予想した場の工夫で、思わず体を動かしたくなる仕掛けをしましょう。

○ ケンパ遊び ○

昇降口や保育室までのアプローチにケンパができるようにフープ等を置いておく。室内の廊下の場合、テープを貼る等してケンパができる円を作っておく。



☆あるく
☆はねる

☆とぶ

○ おはようボール ○



入口等高いところからボールを下げておく。高低差をつけて子ども達の挑戦意欲をかき立てるようにする。ボールには「お」「は」「よ」「う」の文字を一文字ずつ書いておき、子ども達はジャンプしてボールにタッチする。

これらの「36の基本の動き」を意図的に日常の保育に取り入れている園もあります。



「36の基本の動き」を踏まえた遊びの実例を集めたポケットサイズのカード集（南アルプス市）

生活場面を工夫して・・・

○ 雑巾がけ ○

しゃがんで雑巾を絞り、床を拭く。両足をそろえてぴよんぴよん跳びながら拭いたり、歩く時のようにして足を交互に前に出して進む「歩き拭き」をしたりする等、拭き方を工夫する。また、一斉に並んで誰が早く拭けるか競争したり、対向してきた友達とじゃんけんをしたり、遊び感覚も取り入れて楽しみながら行う。

○ 背もたれのない椅子 ○

背もたれがないことで、自然に良い姿勢で座ることにつながる。また、背筋を伸ばすことで体の中心を意識するようになる。



○ 日めくりカレンダー ○

子ども達が各自考えた好きなポーズを写真にして、カレンダー形式で掲示する。毎日その日のポーズをみんなで作ってみる。友達が考えたポーズを真似することで、自分ではなかなかしない動きに挑戦する機会になる。朝や帰り等みんなが集まる機会に、毎日継続して行うとよい。

○ げんきくんボード ○

人型のボードを作り、子ども達は遊んで身体部位が強くなったと思うごとにシールを貼っていく。子ども自らが遊びを振り返り、様々な遊びに挑戦する意欲を養ったり、経験したことを自分で意識することで達成感を味わったり、思考力を育てたりする機会にもなる。



(参考・画像出典『幼児期の運動に関する指導参考資料』スポーツ庁)

入学までにできるようになってほしいこと

～各小学校の入学説明会資料より～

各小学校の入学説明会で新入生の保護者に配布される入学説明会の資料の内容から、主なものをまとめてみました。幼稚園や保育園の先生は、就学に向けた支援や保育の参考にしてください。

学校生活に関して

○持ち物

- ・自分の物と他人の物とを区別するために、名前を読んだり書いたり、持ち物を整理したりする学習もします。全ての持ち物（衣服も）に、ひらがなで記名するようお願いします。漢字は自分では読めても、学級の他の子どもは読むことができません。また、入学後に1年生の担任が一番困ることは、所持品に記名がないことです。

○着替え

- ・入学後間もなく、健康診断があります。この機会をとらえて、シャツやズボンを脱いだり着たり、きちんとたたんだりすることを学習します。お子さんが着脱しやすい衣服のご準備をお願いします。
- ・ひもを結ぶ、ファスナーを締める、ボタンをはめる、衣服の袖等をそろえてたたむ等がスムーズにできるように練習させてください。
- ・脱いだり着たりするのが難しい衣服は、お子さんの実態に合わせて徐々に身に着けるようにしてください。
- ・着替えは、5～6分くらいでできるように練習しておきましょう。
(5分間の休み時間で体操服に着替えられるように)
- ・靴の左右の区別ができるようにしましょう。

○用便とその後の始末

- ・用便が一人で行える。
校舎のトイレは、洋式中心ですが、和式トイレもあります。使い方は学校でも指導しますが、ご家庭でも機会があれば教えてください。
- ・用便については、具体的には
 - ◇パンツを下まで脱がずに用を足す。
 - ◇使用后、水を流す。(男子用小便器は自動で水が流れます)
 - ◇粗相をしたときには、そのままにせず、紙で拭くこと等もエチケットとして教えていただくと助かります。
 - ◇用を足した後、手を洗う。(ハンカチ、ちり紙は常に身に付ける、手を拭く習慣をつけておきましょう。ハンカチ、ちり紙を携帯できるように、できるだけポケットのついた衣服を身に着けさせてください。)
 - ◇学校でトイレに行くのは休み時間ですが、どうしても具合の悪い時には、授業中でも自分からはっきりと「トイレに行かせてください」と言えるようにしたいものです。

○あいさつ・返事

- ・学校では、氏名を使って呼名します。男の子でも女の子でも「～さん」と呼びます。名前を呼ばれたら返事をする、友達を呼び捨てにしないことの声かけをお願いします。
- ・「はい」「おはようございます」「さようなら」等、返事や挨拶が大きな声でできるといいですね。
- ・何かをしてもらったら「ありがとう」、迷惑をかけたら「ごめんなさい」が言えるようにしておいてください。

○給食

- ・4月半ばから給食が始まります。子ども達にとってはとても楽しみなことだと思います。好き嫌いがあっても、みんなで食べればとてもおいしいもので、徐々に食べられるようになるのですが、ご家庭でも指導をよろしくをお願いします。
 - ◇できるだけ好き嫌いをなくしておく。
 - ◇はしやスプーンを正しく持てるようになる。
 - ◇食事のマナーを身に付けておく。
 - 遊びながら食べない 後始末がしっかりできる
 - ◇食事の時間は20分程度。

○聞く・話す

- ・よく話を聞く子、はっきり言える子に！

文字が十分に書けない入学直後の学習は、「聞く・話す」を中心に進めます。人の話に耳を傾けられる子は、友達もたくさんでき、学校生活がますます充実します。

学校では、自分の思ったことや伝えたいことをはっきりと話すことができるように指導していきます。ご家庭でも、日頃から何でも話すことができるように支援してください。お子さんが話す時には、よく聞いてあげてください。まず、親が聞き上手になることが大切です。先回りをすると、お子さんは頷いたり首を振ったりしているだけで済み、自分から話すということがなかなか身に付きません。

困ったことがある時（体の具合が悪い時、分からないことがあった時、トイレに行きたい時等）は、きちんと伝えることができるようにしてください。また、おうちの人の名前・住所・電話番号等も言えるようにしておきたいものです。

○友達との生活

- ・学校での生活が楽しくなるには、友達と仲よくできることが大切です。誰とでも遊ぶことができるよう、しかも、自分なりの主張ができ、ある時は「がまん」もできるようにすることです。また、できるだけ近所の子と遊び、仲よく学校に来られるようにしておいてください。

○学習、仕事、遊んだ後の片付け

- ・ランドセルの扱いに慣れておきましょう。
 - （荷物出し入れ、一人で背負い一人で下ろす、留め具をかける 等）
- ・用具の後片付けの習慣を付けておいてください。
- ・自分の物と他人の物を区別し、整理整頓する習慣を付けておいてください。
- ・入学までに無理のない程度で教えてほしいこと
 - ◇自分の名前が読めること、書けること
 - ◇10までの数が数えられること

※できないからといって無理強いしたり、焦ったりする必要はありません。生活の中で自然に文字や数に触れる場をつくるのが大切です。

○通学路

- ・入学前に、お子さんと一緒に通学路を確認して、道路の横断の仕方や危険な場所を確認し、自分の家から学校まで、安全に気を付けて登下校できるようにしておいてください。雨が降った日に歩いてみると一層効果的です。
- ・家から学校まで何分かかかるか、実際に歩いて確かめておいてください。
- ・入学後、1週間ぐらいは先生と一緒に途中まで下校します。この時、横断歩道や標識、信号を見て、安全に歩行ができるように指導します。

○生活態度

- ・特に最近の子どもが苦手としているのは次のことです。
 - ◇人の話を最後まで静かに聞く
 - ◇座って待つ
 - ◇整理整頓をする
 - ◇我慢をする
 - ◇自分が悪かったところを認め、謝る
 - ◇集団行動をする

家庭での生活に関して

○時間を守った規則正しい生活を！

- ・起床時刻と就寝時刻をきちんと決め、規則正しい生活をさせてください。
- ・朝食は必ず摂らせ、用便を済ませてから登校するように習慣付けてください。
- ・朝起きたらすぐに着替えてパジャマをたたむ、挨拶を交わす、顔を洗う、朝食を食べる、歯を磨く、排便する等、毎日同じリズムで繰り返されていれば、学校での一定の秩序とリズムある生活に早く慣れると思います。

○家庭でのお手伝いを！

- ・学校生活には、学習の他に清掃活動、給食当番、係活動等いろいろな仕事があります。嫌がらずに進んで仕事をする子どもになるためにも、簡単な家事を分担し、積極的に取り組ませたいものです。清掃活動に備えて、雑巾が絞れるようにご家庭で練習しておいてください。



1年生スタート時の指導内容チェック表

各小学校の「入学のしおり」を参考に、入学後の1週間に指導する内容をまとめてみました。計画を立てる際や、指導したかどうか確認する際の参考にしてください。

1年生は分からないことばかり。はじめが肝心ですので、一つ一つ、きめ細かい指導が大切です。「見る」と理解が容易になるので、実際に「やって見せる」指導を心がけてください。

場面	内容	チェック	場面	内容	チェック
学校施設	机の使い方		給食	給食の準備の仕方	
	ロッカーの使い方			給食当番の仕事	
	靴箱・昇降口の使い方			食べ方	
	トイレの使い方			食事のマナー	
	水道（流し）の使い方			給食の片付けの仕方	
	廊下の歩き方			歯磨きの仕方	
	校庭の遊具の遊び方			清掃	そうじの仕方
持ち物	道具箱の使い方		ぞうきんの絞り方		
	クレヨンのしまい方		体育	着替えの仕方	
	赤白帽子のしまい方		学習	正しい姿勢	
	連絡帳の使い方			起立・着席・挙手	
	プリントの持ち帰り方			鉛筆の持ち方	
コミュニケーション	あいさつの仕方			消しゴムの使い方	
	返事の仕方			線の練習	
	大きな声で自分の名前を言う			名前の書き方	
	聞き方			教科書の使い方	
	話し方		ノートの使い方		
ルール	学校にはきまりがあること		日課表の見方		
	時間（チャイム）を守ること				
	当番や係の仕事				
	並び方				



1年生スタートカリキュラム参考資料

学習指導要領生活科の解説編には、「児童の発達の特性や各教科等の学習内容から、入学直後は合科的な指導などを展開することが適切である。（中略）大単元から徐々に各教科に分化していくスタートカリキュラムの編成なども効果的である。」とあります。

入学直後の教育課程編成の参考に、仙台市のスタートカリキュラムを紹介します。

新しい環境に適応する際に、子ども達は、
 ①物理的環境への適応（教室や校庭、遊具）
 ②対人的環境への適応（先生や友達）
 ③社会文化的環境への適応
 （学習内容や学習形態、学校の規則）
 という段階を踏むと考え、週ごとのテーマ（大単元）を設定しています。

毎朝、みんなで活動することで、少人数の幼稚園や保育所から入学する子どもの友達づくりに対する不安を解消させることができます。

週末の金曜日には、その週のテーマのまとめになるような合科的な学習を行います。

第1週 「はじめまして がっこう」		第2週 「ともだち つくろう」					
		ぼ か ぼ か タ イ ム (学年合同)					
1	入学式	〈学活〉 歌・整列	〈学活〉 歌・リズム遊び	〈学活〉 歌・お話読んで	〈学活〉 歌・集合ゲーム	〈学活〉 歌・ダンス	〈学活〉 歌・仲間づくりゲーム
2		〈生活〉 学校探検 ・トイレ ・机 ・ロッカー	〈生活〉 学校探検 ・廊下の歩き方 ・昇降口	〈生活〉 学校探検 ・着替え ・校庭探検 ・遊具の遊び方	〈生活〉 学校探検 ・仲間づくり ・保健室 ・1・2階	〈生活〉 学校探検 ・仲間づくり ・3・4階	〈生活〉 学校探検 ・名刺づくり ・名刺は何枚？
3	〈学活〉 下校指導	〈国語〉 見つけたもの ・話し方 ・「春」	〈国語〉 見つけたもの ・話し方 ・「春」	〈国語〉 見つけたもの ・話し方 ・「春」	〈国語〉 見つけたもの ・「絵で表す」 ・「春」	〈国語〉 「くまさんのなみだ」 (友情)	
4		〈学活〉 給食指導	〈国語〉 見つけたもの ・話し方 ・「春」	〈算数〉 すうじ ・探検した階 ・算数セット	〈算数〉 すうじ ・探検した階 ・算数セット	〈児童会〉 1年生を迎える会	

子ども達に安心感をもたせるよう、時間割を工夫しています。一日の流れを、学年合同の時間
 ↓
 生活科
 ↓
 国語等の教科
 で統一しています。

活動が、教室から校舎、校庭へと広がっていくように計画しています。

一日の中の学習のつながりを意識し、生活科の探検で見つけたものを表現する等、生活科と他教科との合科的な活動を意識してカリキュラムを作成しています。

1年生の教室より ～小学校 スタートの3ヶ月～

我孫子市内のある小学校1年生の教室に約3か月間密着し、実際の指導の様子を参観しました。実践の中から、幼保小連携の視点に沿ったものを抜き出してまとめました。効果的な支援の仕方が満載ですので、ぜひ参考にしてみてください。

4月にしたこと

○実態を把握する

学習面

- ・集中することが苦手な児童が多い。
- ・文字や絵等の個人差が大きく、ひらがなが読めない、書くことに苦労している児童が数名いる。

生活面

- ・活発で元気
- ・大声や奇声をあげる子がいる
- ・人の嫌がることをしてトラブルを起こしがちな子がいる。
- ・気分には波があり、集団の活動に入ろうとしない子がいる。

○学級経営の方針を立てる

- ・一人一人の違いとよさを認め合う学級づくり
- ・学習習慣の定着を図る
- ・全員が学級の一員としてよりよい学級づくりに貢献する（当番・係活動）

幼保小連携に関して

○心がけたこと

- (1) 発散と集中を意識する
- (2) 15項目の内容を意識する
- (3) 実態を把握し、対応する

○実践した内容

(1) 発散と集中を意識する

- ①細かいモジュールで授業を構成する。
 - ・集中力が切れる頃に次の活動に移る
 - ・10分や15分の活動で構成する
 - ・集中力が切れてきたら、体を動かす活動を入れる
- ②日課表の工夫
 - ・活動的な教科を可能な限り午前の早い時間に設定する

	月	火	水	木	金
1	生活	音楽	生活	生活	国語
2	国語	算数	体育	算数	読書
3	体育	国語	国語	国語	図工
4	算数	書写	算数	音楽	図工
5	国語	学活	国語	体育	道徳

4月第1週

	金曜日
朝	学級活動 ・返事の指導 ・入学式で歌う歌の練習
1	入学式
2	
3	学級活動 ・歌や手遊び

☆基本的生活習慣 (②あいさつ・返事)
教室に来た子から始める。

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

*園で習ったものがよい

- ・「パン屋にならんだ…」の手遊び
- ・「落ちた落ちた」の手遊び
- ・「こぶたぬきつねこ」の歌
- ・「大きな栗の木の下で」の歌



週のテーマ

学校生活を知る

4月第2週

	月曜日
朝	朝の準備 ・連絡帳の出し方 ・提出物の出し方 ・ランドセルのしまい方
	朝の会
	朝学習 読み聞かせ
1	国語「あかるいあいさつ」 ①教科書 ②みんなの名前 返事の練習 ③読み聞かせ
2	生活「みんななかよし」 学校めぐり ・靴箱 ・流し ・トイレ
3	学級活動 下校指導

☆基本的生活習慣 (①持ち物・衛生)

- ・予め配膳台の上にかごを用意しておき、連絡帳や提出物はその中に提出させる。
- ・担任は、配膳台の前に立って一人一人に対応する。連絡帳に関しては一人一人に出したか確認する。
- ・「ランドセルは中身を空にするよ」と繰り返し声をかける。

☆基本的生活習慣 (②あいさつ・返事)

- ・教師は一人一人に「おはよう〇〇さん」
- ・手伝いに来ている6年生にもあいさつをうながす。「1年生に『おはようございます』って言ってね。言えるようにしたいから」
- ・6年生が教室に戻る時にみんなでお礼を言う。

☆基本的生活習慣 (②あいさつ・返事)

- ・「先生の顔を見て返事をしてくださいね」
- ・「『はい』って言って立ってね」

☆基本的生活習慣 (②あいさつ・返事)

- 授業の開始時や終了時の礼
- ・「礼の後、先生を見ます。OKです」

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

- ・15分ずつ3つの活動を入れる。
- ・読み聞かせの本は『てぶくろ』と『なぞなぞ』。国語のノートを回収し、翌日の学習のために1ページ目の1行目にその子の名前(ひらがな)を書いておく。

☆基本的生活習慣 (①持ち物・衛生)

- 「水道の蛇口はくわえて飲まないよ」等使い方を説明する。

	火曜日
朝	朝の準備
	朝の会
	読み聞かせ
1	国語「みんなのなまえ」 自分の名前を書こう
2	生活「みんななかよし」 校庭めぐり
3	音楽 歌

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

すべきことが終わったら自由に読書。教師はできるだけ本棚の前に立ち、特に本を選べない子に「この本面白いよ」「この本どう？」などと本を薦めたりする。

☆思いやり (⑬友情)

健康観察で前日に「せきが出ます」と答えた子に対して、担任「せきはまだ出ますか？早くよくなるといいね」

☆人間関係力

(⑩約束・きまり)

「自由帳にはクレヨンを使わない」など、細かいルールはその都度全員に確認する。

☆健康な体づくり全般

健康観察で健康状態を確認する。

「いつもより早く寝ちゃった人？」「すっきり起きられた人？」
「朝食食べられた人？」「うち出してきた人？ 朝出すのは大切なんだよ」

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

・15分ずつ3つの活動を入れる。

①学習用具の整頓

②名前を書く

- ・手本をなぞり書き
- ・隣の行に1回書く
- ・ノートの終わりの行まで練習

③読み聞かせ

- 『ききたいなききたいな』『ふしぎなナイフ』『なぞなぞ』
- ・ノートは回収して添削

☆人間関係力 (⑧かかわり方)

隣の子にちょっかいを出した子に「一緒に読みたかったの？」と行動の裏にある気持ちを言葉にして確認した上で、「『ごめんなさい』を言うよ」と解決の仕方を具体的に指導。

☆基本的な生活習慣 (③時間の意識)

授業中とそれ以外の時間を意識して知らせる。


- ・「今のチャイムは〇〇です」
- ・「トイレに行きたい人は、今行っていいんですよ」
- ・「(朝学習を) 5分早く終わります。本をしまって、トイレ・水飲みに行きます」
- ・「1時間目の準備をします。教科書とノートを重ねて名前のシートの上に置きます」
- ・「チャイムが鳴りました。1時間目が始まるので、やっていることをやめてください。机の上のものを全部しまいます」
- ・「チャイムが鳴ったので終わります」

☆伝え合う力 (⑥聞く)

- ・担任「聞いてください」児童「はい」のやりとりを話の冒頭にし、全員を聞く態勢にしてから話し始める。
- ・健康観察時、あるべき態度を示し、できたかできなかったかはっきりさせる。「お返事もよかったけど、聞き方もよかったです。おしゃべりもいかなかったね」「おしゃべりが出ちゃったのが残念。3号車(机の位置によるグループ)はずっと静かに待ってたね」
- ・奇声を発する子を見逃さず注意する。担任「その声やめて」児童「はい」担任「『はい』って言えたね」「(はい)と言えたことはほめる」
- ・「今、お勉強時間です。おしゃべりはしません」

プリントは担任がかごを持って回収。
ざわつきや混乱を防げる。



	水曜日	木曜日	金曜日
朝	朝の会		
	朝学習		
1	国語「みんなのなまえ」 ①掲示用ワークシートに名前を書く（15分） ②掲示用ワークシートに好きなものの絵を描く ③読み聞かせ 『キャベツくん』『なぞなぞ』	国語「みんなのなまえ」 ①二人組で自己紹介の練習 ②“名前紹介カード”作成 ③読み聞かせ ☆伝え合う力（⑦話す） 金曜日の学習参観に向けて、順を追って話す練習をしていく。	算数「なかまづくりとかず」 ①教科書を使って ②実際に人数を数える
2	図工「すきなもののいっぱい」 ①「図工」の教科内容の説明 ②本時の活動の説明 ・自分の顔を描く ・好きなものを描く ・クレヨンの塗り方の説明 ③絵を描く	道徳 ①「道徳」の説明 ②「たのしいことがいっぱいだよ」 ③「よいこのきまり」 ☆基本的な生活習慣（③時間の意識） 着替えや帰りの支度時には、タイマーを使って時間（5分間）を知らせ、時間を意識させる。	国語 ひらがな ①読み聞かせ ②ワークブックを使って線を描く練習（鉛筆の使い方・筆圧）
3	生活「みんななかよし」 図工の時間に描いた絵を見せながら自己紹介する。 ☆健康な体づくり（④食事）	体育 ①着替え ②校庭の遊具	生活「みんななかよし」 学校めぐり 職員室・校長室・あびっこクラブ・視聴覚室
4	給食開始当初は、班の形にせず全員前を向かせ、給食指導。一人一人の実態も把握する。	学活 楽しい給食 給食の支度・食べ方・片付け方	学活 そうじの仕方 ぞうきんの使い方
5	☆学びの基礎 （⑪遊びから学びへ） 『そらいろのたね』は言葉が多くて話が長く、ストーリーが明確な物語。この物語をよく聞けたので翌日から『11ぴきのねこ』シリーズに。		国語（学習参観） 「みんなのなまえ」 一人ずつ自己紹介 「ひらがな」 “く” “つ”

読み聞かせ専用のパペットを登場させたり、手遊びゲームを入れたりして児童の意欲を高める工夫も。

4月に読み聞かせをした本

- | | | |
|----------------------|---------------------------|-----------------|
| 1日目 『てぶくろ』『なぞなぞ』 | 2日目 『ふしぎなナイフ』『きよだいなきよだいな』 | |
| 3日目 『キャベツくん』 | 4日目 『ガラガラどん』 | 5日目 『こすずめのぼうけん』 |
| 6日目 『はらぺこあおむし』 | 7日目 『そらいろのたね』 | 8日目 『11ぴきのねこ』 |
| 9日目 『11ぴきのねこ ふくろのなか』 | 10日目 『11ぴきのねことへんなねこ』 | |
| 11日目 『11ぴきのねこ だるま』 | 12日目 『うまかたやまんば』 | 13日目 『3まいのおふだ』 |

1年生保護者会資料

いよいよお子様の小学校生活が始まりました。桜満開のもと、順調なスタートができましたことをお喜び申し上げます。

1年間、みんなで仲良く学習したり、運動したり、遊んだりして、明るく楽しい学校生活が送れるよう、担任一同努力していきます。心配なことや困ったことがありましたら、何でも遠慮なくお知らせください。ご家庭と学校とが連携し、協力していければと思います。どうぞよろしく申し上げます。

1年生につけたい力

幼保小連携カリキュラムの重点を載せています

生活する力

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 健康な体づくり

チャレンジ力

- ・ 学びの土台
- ・ 気力・忍耐力



コミュニケーション力

- ・ 伝え合う力
- ・ 人間関係力

豊かな心

- ・ 思いやり
- ・ 命や自然を大切にする

そのためには

1. 自分のことは自分でする、自分で決める

衣服の脱ぎ着、たたみ方、整理整頓の仕方、洗顔の仕方、等ていねいに教えてください。大人がすれば簡単ですが、それでは子どもは育ちません。「上手にできる」「速くできる」より、やる気を引き出すことが大切です。一人のできるようになるためには時間がかかります。じっくりと見守ってあげてください。

2. 友達とたくさんかかわる

けんかをしたり助け合ったりする中で、自分と人の違いに気づき、我慢する心、譲り合いの心、思いやりの心、公共心等が育ちます。

3. いろいろな体験をする

個人差や不器用さは、いろいろな体験をすることで解消していきます。
(洗濯物たたみ、皮むき、雑巾しぼり、おりがみ、あやとり、ひも結び等)

4. 戸外でたっぷり遊ぶ

機敏な身のこなしや、柔軟性、手足の器用さ等が育つ時期です。服を汚しても叱らず、外でたくさん遊ばせてください。

5. 規則正しい生活をする

毎日の元気のもとです。9時間以上の睡眠をとらせてください。「早寝、早起き、朝ご飯」が大切です。

6. スキンシップで安心感を

スキンシップと温かい言葉は、子どもの心に安心感を与え、落ち着きや優しさ、やる気を育てます。

4月第3週

週のテーマ
学校生活のリズムに

2週間で把握した実態を考慮し、個別の対応を始める。
 また、現時点での問題の解決のため、予定より早めに
 席替えを実施。(周囲との関係が悪くなっている子、支
 援が必要な子、体格等に考慮)

	水曜日
3	国語「なかよし」

☆健康な体づくり (⑤運動)
 始業終業の礼の後、「1, 2, 3」と数を
 数えて静止した姿勢を保持させる。

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)
 学習中、「お隣と相談」とペアでの話し合い
 活動を頻繁に入れる。



☆気力・忍耐力 (⑫努力)
 「5分間黙ってやるよ」と声をかけ、
 タイマーを活用して挑戦。



ぐっと静かな落ち着いた
 雰囲気に変貌

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

ひらがなの練習 (ワークブック使用)

- ①読む
- ②“け”のつく言葉を出し合う
- ③書き方や筆順を確認
 担任「気をつけるところは？」
 児童「はらったりはねる」
 担任「何画目？」
 担任「何の部屋から書き始める？」
- ④練習
 書く前に姿勢(背中を伸ばす、お腹と机の間
 には拳一つ分空ける、足の裏は床につける)
 と鉛筆の持ち方、強く濃く書くことを確認。
- ⑤終わったら前日分の直しや色塗り

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)
 この時期の子ども達は、自分が発表することに
 夢中で、友達の発表はほとんど聞いていない。
 また、「〇〇です」と丁寧語では話すこともかな
 り難しい様子。まずは発言したことや意欲的な
 態度をほめ、徐々に友達の発言を意識させるこ
 とや丁寧語で話すこと(発表の型を与える等)
 を指導していくとよい。



4月第4週

家庭訪問開始

週のテーマ

日直・係などの活動開始 家庭訪問による問題発見と深化

家庭訪問の目的

子どもの現状を伝え、保護者と問題を共有する。特に課題に関することを最大限聞き出す。
保護者を励まし、安心感をもってもらう。

	月曜日	水曜日	木曜日
2	体育 50m走	国語 「こえをそろえて あいうえお」	学活 係分担
3	算数 「なかまづくりとかず」 	体育  ①あいさつ ②準備体操 ③ゲーム“もうじゅうがり” ④動物歩き ⑤ぐるぐるタッチレース ⑥ストレッチ	音楽 

☆人間関係力 (⑨役割)

“日直”のスタート

授業の開始時「これから

○時間目の勉強を始めます」

「○○さん姿勢がいいです」と良い姿勢の子を褒めるようにしたらぴしっと静かになるようになった。



☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

「いわゆるグレーゾーンの子は、活動に最初から参加できなくても、最後に参加していればよい。そのためには、参加したくなるような、楽しい活動をすることが大切。」(担任談)

☆人間関係力 (⑨役割)

係決め

①教師が黒板に書き出していく

- ・保健・手紙・本・給食・歌・体育・黒板
- ・配り・窓電気・名札・整頓

②一人ずつ希望する係を発表

「(名前)です。○○係がいいです」
(教師は板書)

③調整

希望を変えてもよい子が移動

④じゃんけんで決定

⑤仕事内容の確認

- ・同じ係のメンバーで確認
- ・教師のところに行って内容の確認

⑥意欲づけ

「係が決まりました。どんどん仕事を見つけて新しい仕事をつくっていいです。本係なら『この本楽しいよ』と紹介したり。どんどん工夫してお仕事をしていきましょう」

5月第1週

	金曜日
3	生活「みんななかよし」 アサガオの種まき ①種の観察 ②種まきの準備 ③種まき ④観察カード記入

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

文字や絵での表現はまだ難しい段階。この時期は、気付いたことをまず話すことで表現させ、かける部分を文字や絵で表すとよい。

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)
生活「みんななかよし」アサガオの種まき

①種の観察



②種まきの準備



③種まき



水やり



④観察カード記入



5月第2週

運動会練習開始

週のテーマ

連休後、生活・学習の再指導

	11日(水)
3	生活「みんななかよし」 学校探検
	13日(金)
3	体育 運動会の練習

☆学びの基礎
(⑪遊びから学びへ)

2年生のリードで学校探検。
「走っちゃだめだよ」と上級
生らしく2年生が注意。



☆健康な体づくり (⑤運動)
& ☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)
& ☆気力・忍耐力 (⑫努力)

「運動会練習で必要なのは体力と集中力。
これがない子についてはいけない。」(担任談)

すっかり小学生らしい姿になっていた。

- ・自分達で「前ならえ」をして整列
- ・体育館に入っても静か
- ・教師の話静静地に聞ける
- ・口を閉じて一生懸命に練習



5月第3週

週のテーマ

運動会練習への適応

	月曜日	水曜日
朝		応援練習
1	生活「みんななかよし」 アサガオの観察	体育 運動会の練習 ダンスの練習
2	国語 ひらがな	体育 運動会の練習 いすを応援席に移動
3	体育 運動会の練習 ダンスの練習	体育 運動会の練習 全校練習



☆健康な体づくり (④食事⑤運動)
全員に水を飲ませてから移動。



☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)
& ☆命や自然 (⑭自然)

観察の観点

葉の形、大きさ、数、感触
多様な色に気づいている子ども達。教師も
そのことに気づくように仕向けている。



☆気力・忍耐力 (⑫努力)

いすの移動に際してあらかじめ
注意することを説明して見通しを
もたせる。

- ・いすの持ち方
- ・途中で止まらず歩く
- ・水筒は肩からかける



5月第4週

週のテーマ

運動会 予行・当日

火曜日

運動会予行練習

土曜日 運動会



☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

子ども達のかいた運動会の絵日記の題材ベスト3

- ①玉入れ (11人)
 - ②ダンス (7人)
 - ③50メートル走 (5人)
- 他 大玉送り リレー

6月第1週

週のテーマ

運動会の振り返り 学習第2段階(45分通し学習) への適応

この週は、運動会を終えたばかりで、授業への集中力が不足し、姿勢の悪い子や話を黙って聞けない子が目立った。ただ、観察カードや誕生日カードを書く時には静かに集中できていたので、このように集中力に欠ける時には、個人作業を増やすようにするとよい。

水曜日	
1	生活 枝豆もぎ ①栄養士の話 ②手洗い ③豆もぎ ④担任の話 ⑤片付け ⑥観察カード
2	国語 誕生日カードの作成
3	国語「けむりのきしゃ」
4	算数「いくつといくつ」
5	国語 ひらがな テスト



☆健康な体づくり(④食事)
食育として給食に使う食材(枝豆)の下処理を行う。

☆人間関係力(⑨役割)
床のごみ拾いなど、自主的に拾っている子をほめ、全体に広げる。

☆基本的な生活習慣(①持ち物・衛生)
手を洗った後、ハンカチで手を拭く子は少ない。

☆思いやり(⑬友情)&
☆学びの基礎(⑪遊びから学びへ)

・「良いところをほめてあげるんだよ」とカードに書く内容を指導。
・「5月生まれの子が5人、6月は6人と多くて大変だが、こういうものを実際に書くことがひらがなの習得につながる」(担任談)

☆学びの基礎(⑪遊びから学びへ)

「いくつといくつ」は数の分解や合成の学習で、これからの足し算、引き算の基礎となるもの。特に10は「3と7」「6と4」のように反射的に言えるようになることが大切。

金曜日	
1	視力検査
2	国語「けむりのきしゃ」 ①音読 ②読み取り ③視写「」の指導 ④続きの話やイラストをかく
3	算数「いくつといくつ」

☆人間関係力(⑩約束・きまり)

前回の歯科検診がうるさかったので、かなりくぎを刺してから出発。

☆学びの基礎(⑪遊びから学びへ)

音読

・「、」で1拍、「。」で2拍おく。
・指でなぞりながら読むなら教科書は置いて、なぞらないなら立てて読む。
・上手に読めているグループをほめると全体も良くなる。

☆学びの基礎(⑪遊びから学びへ)

これまで毎時間同じパターンで学習が進んできたので、自分でどんどん操作やノートを進めている。

☆学びの基礎(⑪遊びから学びへ)

この時期は、自分と同じ意見が発表されてしまったら拳手をやめる、という発想はない様子。だからこそ、同じような内容でもいろいろな表現の意見が発表される。

6月第2週

週のテーマ

水泳指導・テスト

	金曜日
1 ・ 2	体育「水遊び」

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)
園のプールとは比べ、広くて深いプールで水遊びをする。



6月第3週

水曜日

	水曜日
1	<p>国語「みんなにはなそう」</p> <p>①質疑応答のあるスピーチ。 児1「ほくはラジコンが好きです」 児2「ラジコンが好きなんですか」 担任「今の質問はおかしいね」 児3「一番好きなラジコンは何ですか」 担任「良い質問だね」 児1「自動車です」</p> <p>②文をつくろう ○○は、□□へ△△。</p>
2	<p>算数 たしざん</p> <p>ふえるといくつ 式 $4 + 2 = 6$</p> <p>□□□□ ← □□</p> <p>答え 6こ</p>

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

この学習を、朝の会での日直のスピーチにつなげていく。

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

質問に対して良い悪いの評価をしていく。「良い」といわれた質問はその後のスピーチでも使われており、子ども達は教師のコメントから学んでいることがよく分かる。

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

助詞の「は」「へ」「を」の習得は児童にとって時間がかかるので、繰り返し学習する必要がある。前時の文型は「○○は、□□を△△。」

☆学びの基礎 (⑪遊びから学びへ)

どのような場合に足し算を使うのかを理解させることが大切。前時は「合わせて」。本時では「ふえると」も足し算を使うことを具体物の操作を通して理解させる。

6月第4週

週のテーマ

幼保小交流

「せんせいあのね」(日記) 開始

	金曜日
2	生活「なつとなかよし」
3	公園探検
4	※園との交流活動



☆健康な体づくり (⑤運動)
& ☆人間関係力 (⑧かかわり方)
& ☆豊かな心 (⑬思いやり)
& ☆命や自然を大切にする (⑮自然)



近所の公園で近隣の複数の園と待ち合わせて交流。自由遊びが中心で、虫取りや草滑り、鉄棒、長縄跳び等、思い思いに好きな遊びでのんびりと過ごした。入学の緊張もまだあるこの時期に、卒園した園の先生と再会し触れ合うことは、安心感や温かい気持ちにつながる。

☆思いやり (⑬友情)

図工で折り紙を折って以来ブームが続く。一人が全員にメダルを折ってプレゼントすると、それに刺激を受けたのか、いろいろな子がアンパンマンやドレス、手裏剣等を作ってみんなにプレゼント。

1年生保護者会資料

1. 入学してからの子ども達の様子

成長したこと

- ・ 学校生活のリズムが身についてきた。
- ・ 当番や係・日直の仕事がわかり、取り組むようになった。
- ・ 分担してそうじをするようになった。
- ・ 友達の輪が広がってきた。(6年生や他学年との交流など)
- ・ 運動会という大きな行事を経験し、学校生活に自信を持つことができた。
- ・ 給食の準備、後片付けが上手になった。

入学した頃と比べて成長したことを伝えています。

これからも指導を続けていくこと

- ・ 友だちとの接し方
よび方・人の嫌がることをしない。「やめて、嫌だよ」を言う。
- ・ 基本的な生活習慣
あいさつ・忘れ物・後片付け・トイレの使い方・ハンカチ、ティッシュの携帯
- ・ 登下校の仕方(通学路を通る・交通ルール)
- ・ 学習の約束(返事・話し方・聞き方)
- ・ 給食の約束(バランスよく食べる・苦手な味も一口は食べる)

現状の課題を伝えています。

2. 通知表の見方

(前略)

各教科の成績の観点について

国語	進んで音読や読書をする。人の話をよく聞く。自分の考えが言える。 ひらがなが正しく読め、書ける。簡単な文章が書ける。簡単な文章の内容が読み取れる。
算数	20までの数の順序や大きさ、数え方がわかる。繰り上がりや繰り下がりのない20までの数の足し算・引き算ができる。
生活	五感を使って観察ができる。身の回りのことに興味を持ち、様子の変化に気づく。(アサガオの成長、学校探検等)
音楽	楽しく歌ったり、リズムに合わせて身体表現したりできる。簡単なリズム打ちができる。
図工	楽しんで作ったり、描いたりできる。材料を工夫しながら、自分の作りたいものをていねいに作ることができる。
体育	協力して楽しく運動する。リズムに乗って楽しく踊る。固定施設を使って運動する。まっすぐに全力で走る。

(後略)

3. 夏休みの課題について

(略)

(3) 実態を把握し、対応する

①学級全体への対応

RPDCA サイクルで！

Research

○実態を見極める（問題行動がある場合、誰の何が問題か、早くにつかむ）

- 1 週目：目立つ子を中心に全体の把握
- 2 週目：個々の特性をつかむ
- 3 週目：おとなしい子の個性をつかみ、配慮する

Plan

○目指す姿を描き、そこに到達するためのスモールステップを考える

Do

4～6月に心がけたこと

○授業を成立させる

「聞く」と「話す」のメリハリをつける

(ア) 聞き手を見て聞く

手立て：話し手「聞いてください」聞き手「はい」

読み聞かせ等、聞く活動を多く取り入れる。

(イ) 思ったことはどんどん言う、授業に参加する

手立て：隣の席の友達と相談する時間を授業中に多く取り入れる。

(ウ) 書くときは正しい姿勢で集中して

手立て：ひらがなの練習に入る前に声をかけて確認する。

○良いことと悪いことの区別をしっかりとつける

- ・ほめ言葉や励ましは意図的に声にする。ほめ言葉を惜しまない。
- ・問題のある子は、ちゃんとできている時にほめる。
- ・自主的に良いことをした子（落としものを拾う、黒板を消す等）には称賛の言葉や「ありがとう」を。
- ・問題行動（奇声・離席・ちょっかい等）のある子には、スモールステップを心がけ、小さな約束事を決める。破った場合には、「約束したよね」と確認し、「ごめんなさい」と言葉で悪かったところを認めさせる。
- ・友だちの言動が気になり、訴えてくる子には…
 - まず、共感する。（「大変だね」「ちょっと嫌だよね」）
 - その後、具体的な行動の仕方を教える。

Check

○効果の有無を確かめる

Act

- 状態が良くなっていれば、その手立てを続ける。またはレベルアップさせる。
- 状態が良くなっていない、または悪くなっている場合は、手立てを考え直す。
- 問題が出てきたら、新しいルールを決める。

②一人一人への対応

自己中心的で、周囲とのトラブルが多いタイプ



4月の様子

- ・教師に反抗的で挑戦的な態度。
- ・奇声をあげる。
- ・衝動的に手が出る時があるので、友達とのトラブルが多い。

3月の様子

- ・4月に見られた問題行動は全て改善された。
- ・喜怒哀楽の表情が豊かになった。

主な指導や支援

- ほめることと叱ること、無視することを使い分ける。
- 問題行動（離席や奇声等）はすぐにやめさせて謝らせ、正しい行動に改めさせる。
- すぐ指導や支援ができるように一番前の席にする。
- 同調してつるむ仲間同士は席を離す。

苦手なことに取り組もうとせず固まってしまうタイプ

4月の様子

- ・周囲の友達や教師と関係を成立させようとしめない。
- ・嫌なことがあるとうずくまったり動かなくなったりする。

3月の様子

- ・集中してみんなと一緒に課題ができる。
- ・困ったときに固まることはあるが、少しずつ言葉で担任に知らせるようになってきた。



主な指導や支援

- 実際の支援は支援員に指示を出し、担任は距離を置いて観察する。
- ほめたり認めたりする機会を意図的につくる。そのために、興味をもつことをリサーチし、それを取り掛かりにして学習に取り組ませる。
- 「楽しそう」「やってみたい」と思うような学習活動をする。
- すぐに指導や支援ができるように一番前の席にする。

落ち着きがなく、言葉が足りないのでトラブルが多いタイプ

4月の様子

- ・落ち着きがない。
- ・友達とのトラブルが多い。仲間に入りたのに自分からは言えない。

3月の様子

- ・落ち着いている。
- ・自分で自覚して、言動をコントロールできるようになったので、トラブルが減った。



主な指導や支援

- 意地悪な行動を「その行動だよ」と指摘して気づかせる。

我孫子市幼保小連携・接続カリキュラム【方針編】

平成 29 年(2017) 3 月 31 日 初 版 発 行

令和 2 年(2020) 3 月 31 日 改訂版 発 行

編集・発行 我孫子市教育委員会 教育総務部 指導課
我孫子市我孫子 1684 番地 電話 04(7185)1367
我孫子市 子ども部 保育課
我孫子市我孫子 1858 番地 電話 04(7185)1490

協力(イラスト)横山 悦子



